（明治四十二年九月八日第三種郵便物認可）　大正九年九月七日　THE KEIJO NIPPO　第三千二百三十一號　（一）

京城日報

六日夕刊

定價　[illegible]
廣告料　[illegible]
發行兼編輯人　奥田直毅
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通二丁目　合資會社　京城日報社
電話　[illegible]

列車發着表　（行南）　（行北）　[illegible]

◎鄭家屯事件と支那内閣

鄭家屯事件に對する我が要求に對し國務院の方針は友誼的精神を以て事理に準據し一面には誠意を披瀝して交渉し更に一面には日本の反省を促すべし（北京特電）

▲段總理曰く

二日林公使が段總理訪問の際總理は公使に答へて曰く、國交親善の際日本が此の要求を爲せるは大不幸なり政府が若し此の要求を國會に提出せば本國人の感情を傷け兩國の不幸甚だし而して曾て貴公使が聲明せる日本が支那援助の誓言は此の條件と違反す願はくば之に就きて機宜の法を講ぜん事を望むと之に對し公使は是れ本國の訓電なれば致し方なしと答たり（北京特電）

◎日支騎兵斥候衝突

我騎兵斥候は去る四日午後四時二道家子の東方二里大楡樹の北に於て支那騎兵より射撃を受け我軍之れに應戰し遂に支那軍を撃退せり（公主嶺電報）

◎飛船大破

倫敦襲撃中更に一隻

倫敦發表の公報に曰く二日倫敦を襲撃したる獨逸航空隊中更に一隻のツエッペリン飛行船は大破損を被りたりと信ずべき理由あり（倫敦電報）

◎露軍渡河

露國公報に曰く、エルゼザニー地方に於て露軍はヅカタ、リバ河の支流なるセニオブカ河を渡渉し敵の陣地を占領し將校八十名下士卒千六百四十一名を捕虜とせり（倫敦電報）

◎勃將死去

國民前途を憂慮す

勃牙利參謀總長ジヨストは盲腸炎にて死去せり國民一般に彼の死と共に國家の前途に對し多大の憂慮をなしつゝあり（紐育電報）

◎首府陷る

東阿の獨領

獨逸領東部阿弗利加首府なるデル、エス、サラームはスマッツ將軍之を占領したり（倫敦電報）

◎遣露宮晩餐會

閑院遣露宮殿下には十一日御出發に就き五日午後七時三十分永田町御本邸に露國大使館員大隈首相波多野宮相寺内總督大島陸相上原參謀總長石井外相後藤新平男並に内山隨行長以下各隨行員等三十餘名を召され晩餐の御饗應ありたり（東京特電）

◎青木中將歸朝

陸軍中將青木宣純氏は近く支那より歸朝す可く支那顧問に就き參謀本部と協議の爲めなりと（東京電報）

◎東宮日光行啓

東宮殿下には六日午前上野驛御發日光に行啓あらせられたり（東京電報）

◎東洋製鐵發起人會

東洋製鐵株式會社發起人會は來る十五日開會に決せり（東京電報）

◎大橋京電社長

京城電氣會社々長大橋新太郎氏は五日木浦著市内及び港灣の視察を爲し六日出發せり（木浦特電）

◎西域品陳列濟

景福宮内總督府博物館にては豫て二樂莊より送附し來れる西域發掘品の陳列中なりしが同品は六日全部の陳列を了へ山縣政務總監は同日午後館内を一覽せり、尙ほ一般の縱覽は十日より開始の筈なり

◎見習試驗期日

内鮮人判任官見習採用試驗は十月八日より總督府及び各道（京畿道を除く）に於て施行することゝなれり志願者は九月五日の朝鮮總督府官報に掲載せる見習採用試驗心得を熟覽の上九月二十五日までに試驗を受けむとする官廳に出願す可し學術試驗科目左の如し

（一）内地に在りては朝鮮語（國語鮮譯、鮮語和譯、諺文譯取、和文鮮譯）朝鮮人に在りては國語（國文鮮譯、國文譯取、會話）
（二）作文
（三）法學通論
（四）朝鮮に於ける行政法大意又は民刑訴訟法大意（選擇科目）

◎去來す毎に事變の際

本鄕中將車中に日支兵衝突事件を語る

滿洲の守備に當る遼陽師團長より第一師團長に榮轉赴任の途にある本鄕房太郎中將を六日早曉山城驛に迎ふ、將軍は車中に熟眠中なりしが汝山附近にて漸く起き出で語る

吾輩は日支交渉が喧ましくなつて兩國將に砲火を交へんとせし昨年三月末遂に戰雲を望見しつゝ岡山師團を提げて渡滿したが時局は無事に終結し

▲今回復鄭家屯

新河口事件發生血腥き國際問題を惹き起した時帝都の師團に引揚ぐる事となつた、事變を前にして行き事變を後に歸る然も二回共兩國の國軍を擧げて劍戟に訴ふるには至るまい戰はずして勝つを上乘の策とすれば吾輩の如きは上乘の師團長だよと大笑しつゝ、今回の新河口事件かあれば傳へられたやうに奉天督軍顧問菊池中佐の斡旋で支那兩軍が休戰となり二日彙軍の大部隊は吾が公主嶺駐屯淺野大尉の指揮する騎兵若干に監視…護衛でない……されつゝ引揚げの途中、新河口附近で吉林孟將軍麾下の優勢な兵力に邀撃されたのだ、吾が騎兵も應戰し彙軍も止むなく突撃して三日迄に支那兵は退却の止むなきに至つた予の遼陽にて接受せる最後の電報に依れば吾軍に死傷なし、又吾が聯隊旗も敵彈を受けない、何となれば聯隊旗は夙に鄭家屯に急派されし騎兵聯隊の本部にあり現場に捧持してゐないからだ、淺野中隊の騎兵は

▲日章旗を捧

げて帝國軍隊たる事を表示してゐたのだが、支那兵の放つた一彈が吾が日章旗を貫ぬいたとあつた、吾輩は急報により事件重大らしく思はれたので鐵嶺の二個大隊と公主嶺の騎兵を現場に出動さすやう命を發したが、衝突は割合に簡單に濟んだから大部隊は途中に留まつてゐるかも知れぬ、支那兵遽撃の原因は上下の意志傳合疏通を缺ぎ全く吉林兵は休戰の事を知らず不法の擧に出たものらしい、一體支那兵が日本軍を侮辱してゐるらしく思ふのは誤まりだ彼等は神兵の强剛精鋭なる事を知り過ぎてゐる、實際途中で兩國兵が遇つても支那兵は狐鼠々々姿を晦ます位に逃げ廻つてゐる程だ鄭家屯事件は其の反證を示すやうだがあれは支那兵が彙軍の威力振ふは全く日本人の後援による事を信ずるの余り

▲深怨を構へて

少數の吾兵に猛射を加へたのだ實に怪しからん事件で談判終結迄吾が第十三師團の下步騎兵の大部隊が鄭家屯に駐まり支那兵を三十里外に追ひ攘つて其跡に入城してゐる、騎兵は或は近く引揚げるだらうが步兵は尙ほ駐屯する又た此の事件の突發で吾が工兵隊は鐵嶺鄭家屯間に急設の軍用電信線を敷設し其後非常の便宜を得てゐる。コレなど平時ならば外交上他國の領土に電線を引張るのだから非常に喧ましい交渉問題を要するのじやが、あゝした事件の突發した時はグンく軍事上の必要と云ふ所からやつて行ける、今後

▲彼の方面

の警備か、何しろ居留民も多數鄭家屯八面城方面に居り經濟的の發展も可なり進んでゐる今日吾が警察力だけで治安が保てず又過去の兵勇のみで不足なら、萬全を期するに足る丈け增加の必要があらう、其の邊はまだ決定せぬ、憐れなのは奉天督軍張作霖、鄭家屯事件以來夜も碌々眠られぬ位心痛してゐるらしい吾輩の所に彼の幕僚于沖漢がやつて來て此の通り心配してゐるから何分事は穩便にお願ひしますと哲慮の餘り瘦せた頰と凹んだ目を指して詫び入つたよ、督軍も是非が、又煩躁ぎでもあると面倒だから閣下に罷り出たいからとの事だつたらそれに及ばぬと斷はり吾輩數日前訣別の挨拶旁々訪問したら彼は非常に喜んで衷心から今回の事件は全く

▲部下の失策

だが責任上恐懼に堪へぬ旨を語つてゐた、それは實に氣の毒な位腰の低い辭令の下つた同情を乞ふやうな態度だつた、作霖は才子で怜悧であるが督軍も今は以前と異なり奉天省に於ける兵馬の權と牧民の任を負ひ勢力は非常なものだ、彼れは才子で怜悧である、唯悲しい哉、無學だから國際問題を惹起すやうな事件に出會すると度を失ふらしい、事變に對する卓見や滿洲守備の將來などに就ては多少抱負もあるが何分現役師團長としては悉く語るに憚る事ばかりだ腹膨るれど是非はない

◎平北に浮塵子

平安北道にては八月中旬より鐵山郡内に浮塵子發生し郡衙にては關係地主及び小作人等を督して注油驅除に努め居れり被害面積百十四町步にして損害見積高五百餘圓なりと

◎露國藏券は有利也

其の條件と朝鮮現下の金融

露國第二回大藏省證券七千萬圓は既報の如き條件により吾がシンジケート銀行團にて引受くる事となり朝鮮銀行にても本支店を通じ來る十一日より賣出し開始十五日に締切る由なるが右に付水越理事は曰く何分朝鮮も漸く不景氣の遷移を持續し銀行は多大の遊金を抱き其の處分に腐心し居る爲め夙に某々銀行よりは年六分の利廻りにて確實なる債券あらば買入れたしと周旋方依賴の申込みある位なり然るに今回の藏券は期一回に比し一分高にて年利六分四厘の割に相當し朝鮮現在の金利より見るも好個の投資物件たり加ふるに日本銀行の見返り擔保となり居るに付償還迄にも若し金融繁忙となり資金を要する事急なるに至れば之れを容易に手放し得るに付個人は如何と思ふも同業者間の應募申込みは少なからざる見込みなり尙ほ賣出しは十一日よりなれど其れ以前も便宜其の申込みを受くべし

◎本鄕中將通過

遼陽駐屯岡山第十七師團長より第一師團長に榮轉せる陸軍中將本鄕房太郎氏は副官を隨へ六日午前八時南大門驛著八時三十分發列車にて南行せしが龍山驛には白水淡將軍南大門驛には立花師團長古海警務總長山形大佐外官民多數の送迎あり中將は途中岡山に下車數日滯在の上家族同伴東上の豫定なりと

◎江原氏一行入京期

京城に於ける基督敎協同傳道應援のため入京す可き貴族院議員江原素六氏及び宮崎、釘宮、露無、笹尾の各牧師は來る九日午前八時五十分南大門著入京し直ちに二臺の自動車に乘じ總督府其他の官廳を訪問したる上直ちに同夜の傳道說敎會に臨む筈なるが從つて既報の協同傳道日程は多少變更したりと

◎入江課長北鮮出張

度支部理財課長入江海平氏は北鮮方面經濟事情視察の爲め七日午前九時二十分南大門驛發京元線列車にて北行すべく歸京は十月初旬に至るべしと

◎安藤氏送別會

安藤副參事の辭任に對し總督府並に在京各官廳内の知己友人七十餘名は五日千代本に送別宴を張れり▲記念品寄贈計畫　安藤堅次氏の退職記念として入江郡山兩課長、木島晉我兩事務官等發起となり記念品を寄贈す可く目下各方面の有志を勸誘中なり加入希望の向は總督府會計課川津屬宛申込まれたしと

◎會議所役員會開會

京城商業會議所にては既報の如く商業、工業、金融交通の各調査部の設置に就き六日午後一時より役員會を開會し打合す所ありたるが更に本會議を開きたる上決定することゝなれり

安東縣

▲安東驛貨物統計　安東驛に於て取扱ひたる八月中の大貨物は社線發送小口扱九十九萬四千四百七十斤賃金三千八百八十二圓二十錢同到著小口扱五十七萬四千五十九斤賃金一千四百六十八圓五十九錢社線發送車扱七千六百卅噸賃金六千四百卅七圓四十七錢到著一萬九千三百六十五噸賃金四百二十八圓五十錢通過貨物輸入日滿聯絡扱百三萬八千三十一キログラム八院局連帶扱八百九十二萬六千四百六斤輸出日滿連絡扱十四萬二千八百七十七斤院局線連帶扱七十八萬三千百十七斤東滿線連絡貨物安東驛發送六萬四千七百五十八キログラム二運賃九百三十三圓五十一錢到著四百六十五キログラム運賃七圓十九錢なりしと▲永島代議士　埼玉縣選出代議士永島隆二氏は五日夕刻通過北行▲屠獸場工事　安東屠獸場の新築敷地土盛工事は五日商務總會に於て入札に附せるが廣昌號に落札▲黑板博士　黑板博士は四日南方より通過同夜五龍背温泉に一泊の上五日南行▲屠獸場成績　八月中の安東屠獸場成績は屠殺數牛羊豚犢合計一千八百十七頭收入銀二千七百十三圓八十錢なり

清津

▲活牛移出計畫　北鮮牛の内地移入を目的として清津人士の組織せし旭組合は第一回の移出に於て意外の缺損を來せしを以て一先解散するに決せしが今回第一回移出失敗の大原因を爲せる活牛の移入が爲し得る事となりしより楠野府尹就賀大和田氏等の其間に斡旋する處あり茲に同組合は復活して更に活牛の内地移出を計畫することゝなれり▲豆滿江の鮭業　豆滿江の鮭漁業は本月廿日前後より開始され目下相當の漁獲あれど本年の鮭は例年に比し何れも小形なりしと▲清會線二工區竣工　清會線第二工區は過般竣功檢査を了して結末計算中なりしが二十八日全く鐵道局に引渡しを了し同組員は全部撤退せり▲間島本年農作　間島本年の農作物狀況は麥類は既に收獲を終りたるが平年以上にある水稻も亦旱天續きなりし爲め生育良好に豐穣の豫想なるも粟、大豆、玉蜀黍に至りては著しく旱害を受け殊に大豆の如き全滅に瀕したるあり而して粟は今日の所七分作の見込みなれば其不況を見越し粟相場益々强氣に傾き暴騰の兆あり最近兩三日間に朝鮮枡一斗四十六七錢なりしもの一躍して五十七錢となれるが此の向なれば無論六十錢臺に入るべく豫想さる▲稅關支廳再築　本年四月火災に罹りて燒失したる清津稅關支署廳舍は本年内に再築する事となり過般龍山にて請負入札に附したる結果八千七百餘圓にて札幌伊藤組に落札したるが九月一日起工竣工期限は十二月末日までなり▲國境地方旱天　豆滿江沿岸一帶の國境地方は七月初旬來旱天續きにて八月に入りても僅少の降雨ありしのみにて殆ど潤雨として認むる程の降雨なかりし爲め旱害尠なからず一般農作物は一二割方の減收を免かれざるべき豫想なり

北青

▲北青の暴風被害　咸南北青郡一帶は去る八月十九日夜半より二十日夕に亙り大暴風雨なりしが今其の被害狀況を聞くに同郡内俗厚面に於て被害最も甚だしかりしものゝ如く當時出穗揃ひなりし稻の作付面積約五千一百三十九反は暴風雨後一面に稻は白穗と化し枯死するの慘狀を呈し之れが被害六百石を降らざるべしと尙此の外各面に亙り破損家屋二十一棟損害高二萬五千五百五十七圓畑の損害高三千百四十圓に達すべき見込なりと▲新浦角輪組引揚　北靑郡新浦近海は本年四月投網後近年稀有の不漁にて各漁業者共に收支相償はざるものありしが同地六臺に漁場を有する角輪組の如きも同樣の不結果に終り遂に八月二十八日を以て定平郡歸林面松興里漁場に引揚げたり因に前記角輪組の六臺漁場四月以來五箇月間に於ける成績を聞くに總水揚高僅かに二千圓に過ぎざるも總費七千五百圓を要し結局五千五百圓の缺損を生じ居れり

清州

▲學校組合新築　久敷問題となり居たる清州學校組合事務所新築の儀は過般漸く纏り工費三百三十五圓建坪約十坪にて目下建築工事中なれば遲くも本月末迄には落成すべしと▲火葬場改築　今春以來淸州内地人間の大問題となりて喧擾たりし火葬場改築及び之が經營問題は既報の如く學校組合直營事業として解決し其後工費の關係上再三改築設計の變更をなしたるが今回漸く設計書完成したるに依り來る十一日組合事務所にて競爭入札に附し至急竣成せしむべしとのことなれば近く完全なる火葬場の出來を見るに至るべし▲忠北秋蠶良好　本年度忠北秋蠶は既報の如く掃立以來順調に生育し成績頗る良好にて先月末既に全部の上簇を了したれば目下共同販賣の準備中にて繭産石數約二百石なるべしと▲坂口判事歸任　淸州地方法院判事坂口壽助氏は過般夫人の逝去に依り遺骨を携へ鄕里に歸省中の處去る三日歸任したり

仁川

▲久水府尹の歸任　東上中なりし仁川府尹久水三郎氏は九日朝歸任の旨通知ありたり▲仁川八月中貿易　客月中の仁川貿易は輸移出は二十三萬四千六百十圓輸移入百六十二萬一千百七十七圓にして輸移出品の重なるものは米九百一千餘圓大豆二萬九千餘圓牛皮二萬三千餘圓肥料一萬四千餘圓にて輸移入品は米六萬三千餘圓砂糖二萬七千餘圓綿織糸三萬七千餘圓生金巾及び生シーチング二十萬三千餘圓晒金巾及び晒シーチング十六萬一千餘圓綿縮子及び綿イタリアンス三萬二千餘圓支那麻布三萬一千餘圓絹織物六萬八千餘圓諸機械類七萬八千餘圓石炭三萬四千餘圓木材及び板三萬七千餘圓等なり▲和田書記長歸任期　各地商業會議所視察中の和田書記長は一兩日中に歸任すべし

開城

▲稻作良好　當地方稻作は風水蟲害共格別の事なく一般に成績最も良好にして昨年より一層豐年の見込にて農家一般喜色あり▲支廳建築　京城地方法院開城支廳建築工事は著々進捗し既に上棟を了せり▲女工募集　專賣課開城出張所に於ては追々紅蔘製造の時季迫りたるを以て之に要する女工數百名を募集する由▲面長會議　開城郡内面長協議會は毎月十日を定日となしあるも本月は都合により去五日開城郡廳内に開會郡守及び同主任書記等より種々の訓示をなし諸般の協議をなしたり

群山

▲補習視察　群山[illegible]五郎氏は群山商業會議所の調査事務依託を受け[illegible]視察員一行と共に出發の筈▲學校增築　江景尋常高等小學校にては就學兒童の增加も現在校舍にては狹隘にして到底其收容に堪へざるを以て豫て敎室增築の必要を感じつゝありしが道般愈々增築に決し二千圓を學校組合基金及び補助金を以て之に充て約一千圓は江景官民篤志家の寄附に俟つとし工費三千圓を以て增築の豫定なるが近く起工の運びに至るべしと▲江電不許可　江景電氣株式會社設立請願書は嚢に發起人連署の上其筋に向つて提出中なりしが最近其組織内容の不備を指摘し不許可の指令ありしを以て何れ内容組織に多少の變更を加へ再出願を爲す豫定なりと▲水產會社創立　江景に於ける内地人當業者等二三發起となり之れに鮮人有力當業者を加へ江景に於ける内鮮人の營業統一を計る目的を以て[illegible]鮮魚市場なるものを組織せるが附近鮮人問屋側の組合を脫する者續出し目下鮮當業者間の紛擾常に絕へず江景有志及び當局に於ても其仲裁調停に努めつゝありしが道般愈々金五萬圓の資金を以て江景水產株式會社を組織する事に一決し其筋に設立認可申請手續を了したり

光州

▲傳染病豫防令發布　全南警務部にては二日付警務部令第四號及び第五號に依り大正四年六月制令第二號傳染病豫防令第二條に依り同令の全部を適用し即日より施行することゝなれり▲松汀里光州間道路問題　光州松汀里間の道路は非常に低き爲め少々の雨にも直ちに浸水し稍豪雨に至れば道路出水五六尺に及び鮮人は尙ほ之にて通行する爲め危險尠なからず先日も鮮人一名溺死したる事あり殊に自動車馬車等は全く通行杜絕する爲め往生と批難尠なからず近來豪雨頻繁なる爲め漸く當局に對して光松間道路の改修を要望する聲高きを加へ來れり▲宮木長官歸光　内地歸省中の宮木長官は五日歸任▲浦野警務部長　歸省中の浦野警務部長は四日歸任せり

人事消息

▲金森德次郎氏（法制局參事官）　滿洲より陸路歸任の途次五日入京七日夜退京の筈
▲村田榮一郎氏（鐵務課長）　八日より忠淸南道へ出張の筈
▲村田良彦氏（東拓理事）　五日夜南城より陸路
▲山岡元一氏（土木局長）　五日全羅南道へ出張したり
▲齋藤寅兵衞氏（貿易商）　五日夜入京天白樓へ
▲高木亡人合與（支那商人）　六日朝鮮ホテルへ

奉天から北京まで
萬里の長城の遠望
▽▽▽▽▽▽
正陽門驛
□□□□
特派員 神崎蓋一

非常に新しい處?として、氣に入つたのは午前午後の頰を捨て、ノペツに二十四時五十九分と云ふ調子に書き流した處で鳥渡最初は十三時以上になると先づ十二を差引して考へて見ないと見當がつかないが其でもどれ丈け便利だか知れない。既に午前午後か赤黑で區別したり細字とゴヂツクで區分したりする必要がないので兎もすれば午前午後など取違へる心配がなく赤は貨物列車に使用されるから其れも見出しよい。準列車は一列車で北京から奉天に下り二列車で逆に上る。北京發十三時、奉天著翌十四時十分、奉天發翌二時三十分、北京著全二十二時三十分』此外に從來週二回往復の直通郵便列車が毎日一回發著となり其時刻は『北京發二十時卅五分、奉天著翌十九時卅五分、奉天發十時五分、北京著翌日十時廿分』奉天北京間五百二十三哩を二十時間經る處は京城新義州間三百哩を十二時間十分、京城釜山間二百七十五哩?を九時間二十分で馳走する鮮滿直通に比し上成績では無からうが兎に角此鐵路の重要な地位にある事は首肯かなで內蒙古あたりへ入るには多く此線の便を利用させられ現に今回、新に領事館の設置された赤峰には錦州から入つて四日路の處にあるのだと云ふ。不意に扉をノツクする者がある。應じて戶を開くと支那給仕が首を出してノクペリと剃刀を當てた頭が『チユーハン〳〵』と云ふ。時刻ではあるし粥飯と解釋して食堂へ行く。記者の前に來た男は暗青色の支那服を著た瘦せぎすな非常に陰鬱さ云ふ陰險な相をした三十恰好の支那人で其右が英國人、其左が記者が頻りにスープを啜つてると誰か側の椅子に來て掛けた人がある。氣にもせずに矢張り味のいゝスープをすゝつてると突然讒めた聲で『此食堂は列車の附いでせうかね』と日本語で聞かれた初めて日本人だと知れて見ると三十恰好商人風の男がメリヤスの襯衣に白のズボン丈けの異樣な風である。無論食つた丈けの金を拂はればならない事を告げた後で、恁麼男は何處から乘たのかと思つて聞いて見ると奉天からださ云ふ。日本人は記者一人だと思つたら二人だつたのだ。食堂の頭上には標三四尺の煽風器が動いてる。滿洲鐵道のは矢張り此式で天井で舞つてたが彼れは木、是れは金屬製(眞鍮)の差があるなど思ひ乍ら食堂も總て濟む。

午後一時――十三時山海關に著く。Shanhaikuan、と橫の角棒に書かれたのと丁字形になつた縱棒に山海關と書いてある。丁字に鳥渡頭がある如し夫れが白く塗られてあるので恰で十字架をつくりだ。大さも太刀山位の男になら恰度餘り大きく感じられない程ある。(此驛名標は何處の驛も同樣である)

二十分停車なので
下車してホームを步いて見る。此處にも物賣りが數人荷を下してるし苦力が彼方此方群れを爲してゐる。いろ〳〵樣々の種類の煙草、紅の樣に眞紅な林檎、長型の梨、楕圓形の葡萄、油であげたらしい方圓いろ〳〵な菓子、パン、餅……。此方のホームから彼方のホームに橋が掛つてる屋根などありやしない。簡單な木柵がある許りだ。大石橋のブリッヂが恁麼調子だつたと思ひ乍ら上つて見ると北方に嵬峨たる山が廻つてる。『オ、そうだ、此處は

萬里の長城の起點
なのだ。何れ彼の山脈の一部だらうがたア』と思ひ乍ら僅に興を遠望丈で味つてると『ニーヤーニーヤー』と後方で女の聲がする。どうも日本人らしいと思つて振向くと案の如く代赭色のパラソルを差した二十七八位の大丸髷、まあ何でも構はぬ、と萬里の長城を聞く。『彼の山と山との間の處が

鳥渡凹んだあたり
に白い道がありますでせう。彼れの上邊が萬里の長城で御座います』と言はれても鳥渡記者の視野を逸出した範圍にあるので夫れと決定し兼ねてゐると『丁度此指の處で……』とグン〳〵洋傘を記者の方に差しかけてくれる突然ピリ〳〵とけたたましい汽笛の音がしたのでよくも判らなかつたのだけど『あゝさうですか、怎も難有よ』と急いでブリッヂを馳せ下ると其れは彼方側の線路にゐた區間列車の汽笛であつた。

▼天津驛で日本兵の警戒
『此方は閑て仕方あイまツシエぬ』
山海關と天津の間に唐山と云ふ可成りの驛があつたが例によつて例の如き沿線の眺めである。天津は流石に天津である。十九時午後七時十分著二十分間停車。降車する客もあり乘客を送迎する人もあり苦力、雜役夫例の如し、と不圖日本の兵隊がゐる。『オヤ今迄何處でも氣がつかなかつたが……』と思つて『モシ〳〵』とやると提げてゐた銃をカタンと地に下して敬禮した。聞いて見ると北京にも何處とかにもゐる、と云ふ。其處に其外に近所には日本人などゐもしない。何處から來たと聞くから奉天からだと云ふと『鄭家屯や郭家店の騷動で彼の方は騷いどりますでせうなア』と訛りのある調子で更に語を續け『此方は餘り閑で仕方がありましねぇ』と云ふ。太陽は全く落ちて落着は驛近い洋風館の建築立ち連つたあたりにさすらひ利鎌の樣に細い下弦の月が低く斜めに懸つてゐる。其下には

街の灯が點々散在
して旅の思ひをそゝらしむるものがある。驛を離れるとボーイが又『チユーハン〳〵』とやつて來た。夜食を粥飯とは是れ如何に?と獨り問ひチユーは粥にあらずして廚ならんと獨り解きつつ晩餐の卓に就く、夜は沈々として窓外の眺めを消し行き今はせん方なく揚帝歸史の頁など切り切り北京の數日間を偲ぶ。北京天津間三時間十分――二時間、一時間……三十分、二十分、五分。ドタ〳〵と給仕が驅け込んで來た。『正陽門(チエンヤンメン)、正陽門』(三日午前二時四十分記)

◆君は少將を何年しころかい?
龍山驛頭に本郷將軍立話の十分

脊は低いけれど丸つこく布袋樣のやうに肥つた新任第一師團長本郷房太郎中將が赴任の途六日午前七時五十分龍山驛に著いた時、プラツトホームには同じく脊の低い戎面にニコ〳〵した白水軍參謀長が茶色の

◇參謀肩章を胸部に
飾つて師團長を迎へた師團長は白水將軍が士官學校生徒時代の中尉教官で兩將軍の間には師弟の關係がある。ヤア本郷中將はかう高らかに云つてスグ白水將軍の手を握り幾度も振つた、それから兩將軍は姑らく低聲で何か機密の事……を話してゐるのだらうと傍に見てゐると思はれるやうな話し振りで話し合ふ、本郷中將は時々手を振つたりする、發車が迫ると師團長は車上、參謀長は下から相對する。『何かい

◇君の停年順は何名
位だね』師團長が云ふ。『工兵の宮田が筆頭で吉田永沼淨法寺成田有田竹島それから山田良水の八名あります』……と參謀長。『然し此の次ぎには進級間違ひないね、あゝ君の同期の尾野實信(新第十師團長)とは少將になる時同じだつたかい』『イヤ私が少し遲れました』參謀長は早口に云ふ『彼奴(尾野中將)は仲々豪傑だから仲々僕等は叶ひませんよウフフ』と『君は少將を何年しとるかう』うん、四年か

◇吾輩などは七年も
居据りで漸と中將に進級した、イヤ今回の白井(二郞)古海(嚴潮)等は皆早いよ、君も愈々今度だ『有難ふ、別に急ぎません、悠々と待ちます……よ』『其の賞早い方がよからう、アツハヽヽ』と師團長が笑ふ。余り聲が高いのと、立派な將軍が相對して語る爲め、折柄列車に多數乘込んでゐた男女の學生が物珍らしさうに見てゐる。『ア、京日で見たが君は此頃鴨綠江の沿岸を巡視したやうじやね松浦を連れてかね』……と師團長

◇此の兩將對時を
『ハイ……滿洲軍隊の健康は如何です』『お蔭で皆丈夫だ、何しろ此頃は何やかやと忙しいんでね』其內列車が出る『ありがとう』『又東京でお目に懸ります』南大門驛では立花古海二中將外官民が師團長を迎へた、本郷中將は立花將軍と何か切りに話してゐた(一記者)

◉釜山發北行列車中に虎列拉患者發生
五日午後九時三十分釜山入港連絡船壹岐丸三等乘客岡山縣兒島郡甲浦村字宮浦十九番地石工藤原鄕太郎(三三)は釜山棧橋上陸後停車場三等

▲待合室にて休憩
し午後十一時釜山發急行列車に搭乘し目的地木浦へ赴く途中六日午前零時頃密陽驛附近より發病し列車便所及車室中にて數回激烈なる吐瀉をなし病症頗る重態にて午前一時十九分慶山驛を發する頃は已に人事不省に陷りしかば列車中は一方ならず騷擾し一時三十七分列車の

▲大邱驛に着する
と同時に患者は直ちに大邱鐵道避病院へ收容し虎列拉症狀と決定し直ちに應急手當を施し漸く蘇生せしめ前記の如く原籍地及び行先地等を確かめたるが同人は木浦に居住する弟の病氣を見舞ふ爲め渡鮮したるものにて旅行中別に罹りたるものを飮食したる事なしとの事なれど

▲兒島郡一圓には
多少虎疫流行し居たるを以て郷里より既に感染し來れるものならんとの事なり

◉河瀨巡査に功勞徽章
關東都督府にては鄭家屯事件に關し拔群の功勞を顯はし遂に殉職したる關東都督府巡査河瀨松太郎氏に對し八月十三日附の賞狀を添へ功勞徽章を附與したり(東京電話)

▲無線電信で壹岐丸に警告
京釜線釜山大邱間にて發病したる虎列拉患者を搭乘せしめたる連絡船壹岐丸は大邱よりの通知後れたる爲め六日午前六時四十分釜山棧橋發下の關に向ひたるが六日午中に無線電信にて內地を經て同船に通報しあるを以て洋上又は下關港外にて同船の大消毒を行ひ乘客の健康診斷を行ふに至るべし因みに五日午後七時五十分南大門發旅客は同乘に搭船し居る筈なり(釜山特電)

▲劇場錦座に停留
し徹夜此の急報に接し慶北警務部及び大邱警察署憲兵隊より即時停車場へ出張し患者と同船者及び車室を同じうせる者八十三名を降車せしめ同地劇場錦座に停留を行ひ一方には患者搭乘の車室を同驛構內に隔離解放し直ちに嚴重なる消毒を行ふと共に他の乘客客車及び貨物等に對しても相當消毒を行ひたり劇場錦座に停留中の患者と同船同列車の乘客八十三名中一等乘客三名二等四名三等七十六名なりと(大邱特電)

内二等客は六名にして陸軍省軍務局員小倉騎兵少佐森兩步兵少佐陸軍砲工學校教官四方天砲兵少佐井上二等軍醫正其他也而して松木院長以下の慈惠醫院職員及び地方開業醫の藤繩、福武、越智その他の各醫師總出にて警察官憲と協力檢疫に狂奔し居れり(大邱特電)

▲眞夜中に大邱驛の大騷ぎ
大田から京城行の列車特發 ―六日午後二時半發―
右に就き龍山鐵道局當局者は語りて曰く這回の虎疫患者は五日夕方釜山入港の壹岐丸で上陸した者で列車は同五日午後十一時釜山驛を發車し六日の午前八時五十分に南大門驛に著く筈でした、そして急行列車のことであるから郵便車と手荷物車と寢臺車と一二等客車と三等客車二輛とで

◆都合六輛
を連結して居たのですが患者は三等客の中から現れたのであります、何分列車が大邱に著いたのは夜半一時四十分のことで患者はその以前から車中で激烈な吐瀉を始めたものらしく乘客の多くは熟睡して居たことゝて格別氣付かずに過ぎたものと思はれます、然し乘組車掌は斯くと知るや直ちに各方面に急報し取あへず大邱驛に患者を下車せしめ時を移さず鐵道

◆避病舍へ
收容せしめたのでありますが、該患者は愈よ疑似コレラと診定せられたので列車は其まゝ消毒の爲大邱驛に停めることとなりました。且また患者を出した三等列車の乘客全部五十三名と猶ほ壹岐丸にて渡鮮した乘客三十一名(各等を通じて)は大邱驛に下車せしめ、前者は劇場錦座に後者は附近の旅舍に收容しました。猶ほ

◆收容患者
は夜を徹して健康診斷を行ひ、鐵道局では驛員其の他を督勵して大消毒を行ひました、消毒は正規の手續により警官、醫師の立會の上石炭酸、アイゼル液等で嚴重に行ふのですが車輛はそのまゝ驛に解放し其の代りに大田驛より京城行きの特發列車を差立てましたそれで郵便物及び

◆解放され
た旅客は六日午後二時三十分南大門驛著の豫定、猶ほ關釜連絡船壹岐丸は前例の高麗丸の如く大消毒を行ひ當分休航すると思ひます

▲患者午後二時迄人事不省
六日午前釜山大邱間の列車中に於て發病疑似虎列拉と診定されたる藤原鐵太郎は大邱驛に下車隔離病舍に收容され居れるが正午を過ぐるも尙ほ人事不省の狀態を續け居れるが同人は四日午後二時頃岡山驛を出發し五日朝下の關到著までに車中にて二回程辨當を食し五日夜著釜迄に連絡船壹岐丸中にて二回食事を採りたる外は六日朝大邱著まで何物も食せず列車中に於ける發病の時日も不明なり發病の原因は未だ不明なるも釜山上陸後に於ける同人の行動が發病の原因とならざりし事は明確となれり(午後二時大邱電話)

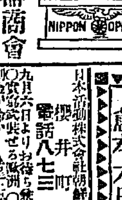
▲停留されたる二三等客
虎列拉疑似患者藤原鐵太郎と同乘し來りたる壹岐丸船客にて大邱まで來れる者同人と同車の乘客全部八十三名は全部大邱に下車停留せしめたるがその內五十二名は錦座に十九名は驛小山旅館に五名は森田旅館に六名は唯家旅館に收容し居れるが右の

▲指定地以外からの旅客も危險乎
朝鮮に於ては目下虎列拉流行區域として長崎縣長崎市及び其の近傍同縣南松浦郡一帶、對馬、熊本縣天草郡一圓大阪市及び其の近傍、兵庫縣神戶市及び其近傍ヒリッピン群島等を指定し以上の土地居住者及び同地區を通過して渡鮮したる者は釜山開港檢疫所に於て停留もて糞便の檢鏡を行ふ事となり居るを以て過日の如く有菌者は停留所に於て發見せらるゝも今回の患者は指定地域に非ざる岡山より乘車したるを以て連絡船より直ちに列車に乘り込み遂に列車中にて發病したるものなり(警務總監部衞生課員談)

▲大田驛の混雜
五日午後十一時釜山發列車三等客中岡山縣人藤原鐵太郎は慶山附近にて發病したるが大邱驛にて診察の結果疑似虎列拉と鑑定したる爲め列車は二時五十三分遲著したり大田驛にて驛員總出にて乘客三十名及び各列車を消毒し六日午前八時四十五分遲著回復の爲め特別急行列車を仕立て南大門に向へり當地は初めての事とて驛は一時大混雜を呈せり(大田特電)

▲沿線警戒
警務總監部に於ては六日午前二時十分頃慶南警務部より電話を以て虎列拉患者發生の通報を受けたるを以て直ちに電話及び電報を以て釜山大邱間の沿線を戒め各驛下車乘客取調べ及び停留消毒檢便を命じ沿線各驛村落等に對し嚴重なる豫防警戒を訓電したり猶患者と同車室の乘客中には患者が烈しき吐瀉を始めたるを見て大いに怖れ他の車室に逃げ込みたる者あるを以て大邱以北の各驛に於ても同列車搭乘の三等客に對しては嚴重なる消毒を行ふ事となり警務部衞生課は夜半より戰地に於ける司令部の如き多忙を極め居れり

讀者文藝 (一等には五十錢の書籍券を呈す)
▽物は付『堅いものは』
○番頭上りの二代目(一等) 清州 古谷曉聲
▲資產家の頭 京城 荻野米藏
▲我が帝國の基礎 同 靜浪
▲親爺の燒きまし(先客) 楊市 平北生
▲秘結した時の便 鎭南浦 拜水
▲課題及募集規定は欄外にあり

新音譜 九月號 第二回著荷


京城本町 日本蓄音器商會

〈演藝案內〉
黃金館 天然色活動寫眞株式會社朝鮮一手代理店 M・カシー商會 電話一八五三(階上)一六三七(階下)
○九月七日より特別大寫眞提供 ○泰西大活劇『快報』最長尺 見る嬉しき快報の字開くし嬉しき快報の聲をも如何なる大活劇の展開に依りて如何なる快報を齎すか
○教訓琵琶劇『孝の德』最長尺 兒島旭洲琵琶 貧乏世界も見よ人の親……人の子……可憐なる哀話が孝子の德實に教育好資料
▲大冒險大活劇第九『名金』第十七篇第十八篇 キチーはロローと一緒にサチオ伯の爲めに船の運命に……
▲連鎖劇『佐倉義民傳』全五卷 二百六十四ケ村の悲哀……
▲名天活寫眞社最近の大撮影

大正館 五月上旬於高輪御殿 賜台覽 戰禍 一萬呎 原名平和に於る戰の叫び 九月六日より上場 戶田式部長官命名 米國軍國主義の急先鋒ハドソン、マキシム氏及ブラツクトン少將が…… 本年三月六日より六週間大統領官邸に於て各州知事及朝野名士を招待して觀覽に供し而して後市場に賣出されたり 櫻井町 大正館

御成座 電一九一 成町 革新派中村梁一行 第八十一回替狂言 一番目 想夫憐 二番目 喜劇二人書生

勿見落 黃金館 大好評大入滿員續きの吉田奈良勝口演の…… 義士劇 神崎與五郎は愈本六日限り

大正館 櫻井町 電話八七三 日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店 九月六日よりお待兼ねの臨時特別大寫眞

浪花館 明治町 電話二六〇 聯合浪花節大會 初御目見得 竹本祖太夫出演

肺藥進呈 肺病と肋膜炎の大妙藥を植物性より發見す今般官公立各病院へ壹ケ月分宛無代提供す端書で申込御實驗を乞ふ但患者個人は壹ケ月分參圓申受く 長崎小ケ倉 福田回生堂藥局

解雇廣告 埼玉縣人 逸見平吉 二十九歲 右者都合により八月三十一日限り解雇仕候間此段廣告候也 九月五日 京城本町一丁目 山岸天佑堂樂器部

尺八樂譜解說 尺八樂譜 東京小石川區大和町 水野呂童

▲產婦人科 本院 京城旭町一丁目 電話二三四〇番 診察午後 分院 龍山漢江通(柳町) 電話一〇六番 診察午前 中央婦人病院 院主 太田茂

橋本製靴店 仁川宮町一丁目 電話「武武武番」へ御知せ被下度候

コレラ恐るゝに足らず胃腸さへ健全ならば
くだりはらによし

じぼりはらによし
東京淺野製
全國各地藥店に販賣す

●手の長い下女 京城積善洞に居住徐姓女(二〇)は昨年十二月より本……に雇はれ……に隱匿し其後姿を晦ましゐたるを此程發見されて新路警察署に檢擧さる

●釜山檢疫所停留者 三日……を申請中の處四日旅券下附ありたり
清水與吉、森川はるの、小塚さと、片山むつ、川傳太郎……

●同(九月六日午前八時三十分發) ▲發文 風雨強かるべし▲低氣壓位……七百

●課題及募集規程(讀者文藝)

天氣 少雨後曇一晴 ▲九月七日

……女本公中二月十三日正午頃家人の不在に乘じ同家の衣類五十一點(七十五圓)及び眞鍮製の大火鉢一個外雜品(十五圓餘)を竊取して他家……

……の主唱により滿鮮方面の……釜山より四名木浦群山より各一名都合六名にして來る六日出發する事に決し過日釜山署を經て旅行券下附方……

……大和さかえ、小川ちか、西村やす、鈴木梁次、同しづゑ、同まさ、同鍛太郎、宮本英一の廿名四日午前新羅丸より上陸容……

……耗▲進行方向 東北東▲記事 降雨あるべし▲警戒區域 全羅南道慶尚南道の沿岸

●眼の表情と顔の愛嬌

▽眼ばかりでその人の美人不美人を定める事は出來ない

人の顔を見る場合には何處よりも先づ第一に目を見ます。眼は顔の中心となつてゐる、眼が物をいふなどゝも申し、目に依つてその人の心を讀む事もあります。何したら人を引つけそして快感を與へる眼になれるか

▽近頃は大分 あれこれと研究して居る人もあるやうですが、然し之は眼の形や色の如何によつて定まるのではありません。有名なマグニュスの云つた言葉に『眼ばかりでその人の美人、不美人を定める事は出來ない。トルコ邊の女を御覽なさい。顔をすつかり隱して眼ばかり現はしてゐますが、それで見ると

▽其人の表情 といふものが少しも窺はれません。目が美しいとか美しくないとかいふのは眼と顔面の筋肉の運動との調和にあるのです』といふ事があります眼ばかりで其人を定める事は出來ませんでしたよく世間では三角眼はどうとか丸い眼はどうとか、又

▽その眼の色 によつて其人の健不健精神狀態迄判斷する人があります。殊に西洋などでは中世紀頃から眼判斷が流行して智識階級の人々に迄信ぜられて居りますが畢竟迷信に過ぎません。又あの人の眼が大層よいから自分もあんなに仕やうなぜ、大きく見ゐるやうに目の化粧したり樣々な表情を眞似て見ても顔の形が異る以上必ずしも前の人のやうに美しく見ゐるとはいはれません

▽眼の動かし 方によつてあんな時にはどんな感を與へられるといふやうな事には多少規則が無いでもないやうです。例を申せば寫眞の顔です大方の人は恐い顔をしてゐますあれは寫眞屋が此處を御覽なさい』と一點を指すので其處を凝視する。すると兩方の眼の視軸が衝突して恐ろしい顔になるのです。

▽黒眼と白眼 のあまりはつきりしてゐるのはいやしく見ゐますいくらかぼんやりした方がよいでせう。高度の近視眼の人は愛嬌が無いと申されてゐますが、遠い處が見ゐぬ故自然動作が鈍くなるのであり升

●平壤に於ける政務總監令息一行

山縣政務總監令息辰吉氏及び令閨の一行は高野三井京城支店長夫妻及び時永京畿道事務官の東道にて滿洲行の途次二日午後三時十分著列車にて平壤に一泊その日は稅關波止場より端舫にて大同江を遡航し水道鐵橋下より上陸して牡丹臺の風光を探りお牧の茶屋に於て晩餐を喫し後ち旅館に引返されました猶ほ三日は雨の鎭南浦を視察し朝日館に於ける中野府尹の歡迎晩餐會に臨みたる後終列車にて出發平壤を經て安東縣に向はれました(平壤)

●仁川商專生旅行

仁川商業專修學校本科三年生は今回往復五日間の豫定にて國境方面に修學旅行を試せるが來る十二日仁川出發途中平壤鎭南浦を經て新義州に赴き同地より直路仁川に引返すべし

●京城の盆栽は極く最近の流行です

△朝鮮の人は寒中柘榴を地中に埋めてかこふ

◇『京城に盆栽が流行り出したのは極く最近一年足らずのとで、私共も商賣柄少いぢつて居ります……』と、本町の切花屋の主人中村さんは、狹い向ふの露路に自分を案内した◇誘かれたるは煉瓦倉庫の裏庭、板塀を隔てゝメリヤスシャツや浴衣が物干竿に翻り、上の方にはまた油屋旅館あたりの物干臺が見ゐる◇と見れば餘り風流氣も無さ相な散步の庭には七目長い杜松がある、白樫がある、栗の枯れかゝつた眞柏がある◇それでも主人は元氣なもので『私もこれから一つ大家にならうといふところですよ』ニコ〳〵もの◇庭の傍にはまた柘榴の實をつけたのが蔓を延して居る◇主人曰く『朝鮮の人は柘榴を愛好しますが、每冬越年がむつかしいので冬になると樹のまゝ地中に埋めるやうです、これは此の猪庭に植ゑましたのが急にこれ丈け太りました◇今年は冬を凌ぐか何うか一番このまゝ置いて試して見ようと思ひます……』と

●簞笥へ藏ふ夏物

▣手入に注意を要する

『長持に傳まれ行く衣更』は松瀨青々の古い句ですが秋の衣更もやがては近づいて來ます、冬物の汚點は外から來ますが夏物は内と外と兩方からやつて來ますから厄介です▲『外』とは塵埃、雨水、酒その他の液體及び泥沫などです『内』とは汗汚點です、夏はこの汗の爲めに着物が痛みます、又此汗が外の汚點のお手傳ひをして內外共に責め寄せるから簞笥へお仕舞ひになる節はよく〳〵手入れをして置いては可けません▲汗が乾いたまゝ古びた衣ばかり惨なものはありません、袖口や襟の色が變つて仕舞ひ背などは臘が吹いて惡臭がします、ですからすべて襟、袖口はベンヂン油、揮發油で襟度も拭つた後、酸の薄い液を霧吹きで吹きかけて置きますと垢も取れ汗も拔けるさうです▲絹は一番外部からの汚點が附き易い部分で果物の汁は薄いアンモニアと硼酸と等分液で拭へば取れます、煙草のヤニはアルコール又は味噌汁で拔けます、乳汁はベンヂン油又は揮發油で拭けば宜しい、汚れた衣類はブラシ又は天鵞絨で掃き取り汚點は先づ適當な前記の方法のいづれかで取つて衣服を揮發油のバケツに入れ浸して廿分ばかり後に摘んで絞り乾かして火熨斗をかけると好いのです

●仁川基督教協同傳道

基督教協同傳道仁川委員部にては本月六日七日兩日午後八時より男子會員に八日午前九時より婦人會員に何れも山手町基督教靑年會館に於て基督教協同傳道をなす由因に牧師は梅根支治井口關新明の兩氏なり

●吉原訓導退院

鐘路小學校訓導吉原氏は八月初旬よりパラチフスに罹り順化院に入院中のところ來る十日頃退院の筈

●井上訓導歸任期

府內鐘路小學校訓導井上氏は兼て兩親の病氣の爲め鄕里へ歸省中のところ來る十日頃歸校の筈

●南大門小學校報告會

六日午後一時より東京及び各地方に出張せし敎員を集め家庭訪問、敎育學其他各自研究の報告會を催せり

神社とお寺と敎會

○西本願寺(若草町) 海州氏野裕寺正の葬儀の爲め海山開敎師は海州に出發六日葬儀執行の筈

○東本願寺(南山町) 六日午後八時より信友會非船紗の講演ありて大幸氏の講義あり

婦人界消息

△金男爵夫人(中樞院議官夫人) 重病の爲め京城婦人病院に入院近親の外は醫師の注意にて面會謝絶

△ソエウル、アンナー孃(佛國人孤兒院院監) 京城婦人病院へ入院中一時は餘程重態なりしも昨今非常に輕快に赴かれました

△エル、ジョリー夫人(龍山鐵道局敎習所敎師) 道總病氣の爲め辭職し令息の在勤せる支那漢口に向け六日朝出發されました

たいどころ その日〳〵

◆鯵うの花ずし 鯵の頭を切り落して背開きとして中骨をぬきとり薄身をすき小骨を拔きて洗ひて鹽をまぶして其まゝ二時間程置き水洗ひして酢の中に三時間程つけて置く別にうの花をよくすりて裏ごしにかけたる鍋に入れだしさみりんと加へて煎り醬油を少しく加へてパラ〳〵に煎りあげてさまし置きさめたる處に鯵を酢よりあげてうの花をつめ竹の皮にまきて折り箱のごときものゝ中にきつちりとつめかるき押をのせて四五時間も置き取り出して五分程の小口切りとし盛りつけて出す(青木はつ子)

商況

東京株式特電

東新株下押す 三十日 大引 前場寄付

銘柄	前場寄付	大引
日本郵船	—	—
東京電燈	—	—
鐘淵紡績	—	—
同新株	—	—
日本石油	—	—
東株	—	—
東新第一	—	—
東新第二	—	—
東新第三	—	—
諸株	—	—

東京債券現物特電

(前日との比較)

銘柄	二日出來値段
東洋拓殖	—
京城電氣	—
朝鮮銀行	—
南滿洲鐵道	—
朝鮮鐵道	—

東京公債直取引特電

(前日との比較)

銘柄	六日出値段
五分利特別	八二、八〇
五分利公債	八一、八〇
一回四分	—
二回四分	—
甲號五分	—

深川在米特電

六日現在高	
朝鮮米	三四、四四二
臺灣米	六三、八二六
内地米	一、五九二、〇四五

東京期米特電

	前場 十一月限	後場
六日寄付	一五、四八	—
高値	一五、五〇	—
安値	一五、三六	—
止め	一五、四三	—

大阪株式特電

類	六日前場引	後場引
宇治川水	—	—
神戸電鐵	—	—
京阪電鐵	—	—
和泉紡	—	—
合同紡	—	—
鐘淵紡	—	—
同新株	—	—
東洋紡	—	—
大阪商船	—	—
日本郵船	—	—
大阪米	—	—
東京新株	—	—
大阪株式	—	—

大阪三品特電

六日前場		
八月限	一五二、五〇	一五二、五〇
九月限	一五二、五〇	一五二、六〇
十月限	一五二、五〇	一五二、五〇
十一月限	一五二、二〇	一五二、三〇
十二月限	一五二、五〇	一五二、八〇
一月限	一五二、四〇	一五二、三〇

大阪期米特電

六日前場	
當限寄付	一四、七六
中限寄付	一五、二〇
先限寄付	一五、四四
	め止

下關期米特電

五日前場	當限	中限	先限
寄付	一四〇六	一四〇三	一五〇〇
高値	—	—	—
安値	—	—	—
止め	—	—	—

雨後擬り

雜報

●內地糖と協定

協定により市價の低下を入爲的に防過せんとと試みし金ても生産過剰と不人氣とによる市場の大勢は如何ともする能はず……今日の武落は殆んど底に相當の取引行はれたる模様なり勿論協定以下に低落の場合には會社側にては直に市中在荷を買上ぐる豫定なるも斯く氣配の腐敗せる以上は今少し底下を見て押目買ひを試みんの下心と見る……

●浪平板値上げ

浪平板は各店の新期手入を見越し過般手持筋の景氣……

●金布類と眼先

嫌ふべきにあつさりし機先大阪市場は昨今浪華共に在荷の排底せる引締め來れるより鼓舞漸く人氣を持直し五錢方騰貴せり各地を通じ晒へ値は平板見印一圓八十錢尺一圓六十八錢なり眼先輸入の如何に拘はらず尙は多少の引締を見るべきがさ

五日の大阪綿布相場は更に二錢五厘高の入電を齎らし龍シーは會社の五圓十二錢五厘同市中相場は尙之以上の成行なるに當地は共に微して落付相布の如き未だ建値の勘行と能はざるの百五十一圓なるものゝ如し之れ先物安當時の作品あると今尙賃需の作はざるが爲なるも内地相場よりすれば現今の建値に於てすら割安なるを以つて愈々商談きの活況を呈するに至りし曉は漸次建値に接近するは勿論此勢大阪相場の如何に拘はらず更に建値を引上ぐるに至るべしと

●洋釘眼先高

洋釘は昨日大阪より五十錢高の入電ありて人氣強みなりし時により夫れ〳〵異なるも眼先幾分の値上げを見るに至るべし

仁川米豆取引所仲買人 まるにち ㊐ 仲買店 支配人 土居勝 電二八二番國二八三番

●地場正米強硬

地方の割安に乘じ南鮮方面鎭南浦等よりの買募りし結果之が迎著に連れ漸次在來の潤澤を告ぐるや左しも頑強なりし地場正米も人氣一變ザラ〳〵低落の步調を辿りて遂に高値より八九十丁方を下押しと同時に鮮白の如き内又不勢に陷り此處に精米筋も眼先更に安値を期待するに至りて折角の地方買附米も此間聊か資拔けの的に急ぎ手放したる振合ありたるに其後釜山方面の好勢に刺激され……地方との商談困難に陷り……米の途切るや各自の持米漸減

●薄の漸く再び原料の手

……

●鹽鱒氣高し

樺太島鱒は不漁に終り……

方を引締め約二十錢 鮮白も……

下關相場

▲朝鮮白米は不引立 其後百六十三叺の輸入に過ぎざると産地も安からぬ……

▲大豆は依然氣崩れ……

△朝鮮一等白米 十五圓六十錢
△同二等白米(當用) 十五圓七十錢
△同 十五圓四十錢
△元山大豆 十五圓三十錢
△同 十四圓七十錢

京城正米

地與貨物株潤と地方不引合との爲め……

南大門の廻穀

全泉米 二五八叺 水原白米 二三叺
……

仁川現物市場

△籾入は降雨にてなし
△正米同斷氣配は依然保合を唱へ居れり
△小麥同斷

仁川期米

▲六日前場 當限出來不申 ……

▲六日前場 大阪天候晴天 一錢安の入電

十七錢と小堅き移

市場雰聞

▲不動保合

天候は昨夜來又復降雨……

仁川米豆取引所仲買人 利 仲買店 電話長九〇五番 電信略號……

▲取組激增

▲暴風警報

▲前場の手振

反つて小掬ひ的買物多く

▲人氣落付く

入に際して腰弱連の投げ

退き一順 定時增證納

十石と激增 七萬千三百五

▲市場薄商內

▲天候不良

降雨多量加之

冷と感

好影響 稻作上決して

▲新動機俟ち

見越し 今後の厄日も無難

後日の天候

田中商店 電話二六二八番 ……

唉 新動機の發現

▲弱氣の前途觀

仁川米豆取引所

六日の十一月限

前場	
寄付	十一圓七十七錢
止め	十一圓七十九錢
高値	十一圓八十錢
安値	十一圓七十七錢
出來高	一萬八千六百五十石

平均値段	
一節	十一圓八十錢
二節	十一圓八十錢
三節	十一圓八十錢
四節	十一圓九十九錢
五節	十一圓七十九錢

賣買取組高		前日と比較
九月限	一萬百石	一二七六 高
十月限	一萬八千百石	一二八〇 安
十一月限	七萬千三百五十石	一二八一 安
五日後場		一二七六 高

小賣白米

現金賣 一等白米 十六錢 次白 十五錢五厘

白米標準値

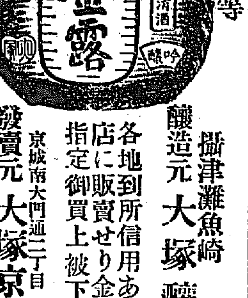
十五圓三十錢

髮をしなやかに 丈長がく 美しく房々と 黑くするは 漆のやうに 廣い世界に ―タツタ一つ― パール煉香油 ……とは…… があるばかり パール愛用者がおつしやる實話であります

本舖 東京 平尾銑也商店 關西代理店 大阪 平尾贊平支店

品質卓絶中味豐富

優等 清酒



攝津灘魚崎 釀造元 大塚釀造所

各地到所信用ある食料品店に販賣せり金露印と御指定御買上被下度候

京城南大門通二丁目 發賣元 大塚京城支店 電話四〇一番 振替口座五七〇番

再製鹽製造販賣 關東洲鹽青島鹽直輸入販賣 大日本鹽業株式會社總代理店

仁川府本町二丁目四番地 合名會社 鈴木商店仁川出張所 電話長八三番 受信略號(ジンセン、カネタツ) 發信略號 タツ 又は タ

釜山府本町二丁目 合名會社 鈴木商店釜山出張所 電話長七六二番 受信略號(フサン、カネタツ) 發信略號 タツ 又は タ

原鹽再製鹽共常に多大の貯藏有之候に付如何に多數の御注文と雖ども誓て充分なる安價を以て貴需に應じ可申候間多少に拘らず續々御注文仰付被下度奉希上候

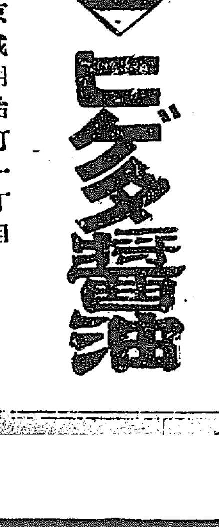
●別莊賣却 仁川柳町 士地高燥 約六千坪 眺望佳絶 建物和洋折衷三構外に果樹二千本 仁川山手町二丁目 エ、エ、ウー

內科 小兒科 京城日出小學校前 入院隨意 多々見醫院 電話九四〇番

東京製鞄 旅行用具一切 雨合羽

ゴム引マント 防水布外套マント色々 魔法瓶中瓶取替 洋傘 卸小賣 高木商店 京城本町一丁目電話一三四番

銚子港 田中玄蕃釀造



代理店 京城明治町一丁目 櫻正宗發賣元 山邑京城支店 電話八四九番 振替貯金京城七五番

● 京城溫度 六日正午 ……度五分 ……十九度七分 測候所日中最高溫度 二十八度四分 二十五度八分

豫報

……週間以內に到着發見通告者には五十錢書籍券を呈す 但何書何號と明記に限る

八十八夜	五月二日	四月廿日	
入梅	六月十一日	十月三十日	
半夏生	七月二日	十月廿一日	
二百十日	九月一日		
彼岸	三月十八日	九月二十日	
社日	三月廿二日	九月廿八日	

宮本武藏

第百五十一回

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

天草一揆の首領に宗塚忠右衞門定興といふ人がある。此人は小西攝津守の浪人で母は布施屋飛彈守といふ者の女、幼少の時に母が病死をしまして母方の祖父布施屋飛彈守に養はれ幼少から文武の道に心を寄せ成長の後は天晴なる人物となつた、舍弟を忠兵衞といひ兄弟共に祖父飛彈守に隨つて大坂に入城なし元和元年五月大坂落城と相成つた時、祖父に當る布施屋飛彈守は讃州畔尾の城主生駒宮内太輔忠重の勢と戰つて遂に討死を遂げ、兄弟は亂軍の中に一方を討破つて播州三日月まで落延び、此處に暫時足を止めて布施屋の姓を改めて宗塚といたしました。忠右衞門此時まで殘念に思つて居るのは祖父布施屋飛彈守の敵生駒宮内太輔、一方ならん養ひの恩を受けた祖父の仇、何卒して忠重の首を取つて泉下の妄執を晴さねばならんと、弟の忠兵衞倅左内の兩人を三日月へ遣し、已れは只一人鯛の鱗を兩眼に入れまして盲人の體を裝ほひ琵琶法師貞巳と名を改め、讃州畔尾へ乘込んで城下に足を止め、琵琶を彈じまして諸方の席へ招がれ、素より美音、殊に琵琶は頗る名人でございますから大層評判になり、城内へも折々招がれ遂に生駒宮内大輔の目通りへ出づる事になりました。其頃は平家琵琶といふものが大層流行つたもので忠重は已れの首を狙ふ者とは夢にも知らず、大府貞巳が氣に入つて都度々々城中へ招いて琵琶を聽く、丁度五月七日の事で相變らず貞巳城内に參り忠重の酒宴の席上で琵琶を彈じ興を添へる、處が人といふものは種々嗜好のあるもので此忠重といふ人は蛙の聲を聞くのが此上もない樂しみだといふ、开で庭内に蛙の亭といふを造り池に數萬の蛙を放して其鳴聲を樂しむ雨の夜などは時を得顏にガア／＼ガア／＼鳴立てますが什麼も騷々しいの何のつて大概な者は耳が遠くなつて了ふ、其れを聞き乍ら忠重侯酒宴をするのが道樂である、今宵も蛙の亭で近習を相手に酒宴を開き貞巳に琵琶を彈じさせ、餘念もなく樂しんで居ります、するとザアーッと降出した雨、蛙は得意氣にガア／＼鳴いて居る十二分に醉飽した忠重『貞巳、例も乍ら其方の平家は格別ぢやな、屋島の戰ひなどは今目に見ゆる心地して折からの雨も矢叫びの聲と聞ゆる』貞『ハッ御意に入りまして何より仕合せ』忠『其方は盲人の事ぢやに依つて之から旅宿へ引取るといふのも難儀であらう、今宵は城内に泊つたが宜い』貞『ヘエ有難き仕合せ……』忠『予は取分け蛙の聲を好むが其方は什麼ぢや』貞『私も蛙の聲は洵に好きでございまして此鳴聲を聞きますが何よりの樂しみでございます』忠『ハア其方も蛙の聲を好むか、然らは幸ひ予の寢所の次室へ臥したが宜い、終夜蛙の聲を聞き乍ら枕に親しむが風流ぢや』貞『有難き仕合せに存じます』輕て野田兵作に名島三平といふ近臣が『貞巳此方へ來さつしやい、寢所へ案内して進はすから』貞『有難う存じます、今晩は飛んだ御厄介になりまして相濟みません、左樣なら仰せに隨ひまして蛙の聲を聞き乍ら寢みまする事でございます』〈ヘエお前も蛙の聲が好きか、殿樣ばかり蛙が好だと思つたら世の中には變り者があるものだな、之がお前の寢所だから』貞『ヘエ／＼分りました什麼かお構ひなくお引取りを願ひます』○『何か用事があつたら呼ばつしやい』と二人の家來は引取る。扨忠重は十二分に醉酊いたしまして自分の寢所へ這入り、鼾雷の如く前後不覺に寢て了ひました、夜の更るに從つて雨は益々強く、其中を數萬の蛙聲は宛然閧の聲かと怪しまるゝ許り、彼是九ツ半とも思ふ頃、鳴破と飛起きた忠右衞門定興、鯛の鱗を取つて了へば兩眼は素より明らか、琵琶の中に隱て仕込んだる郷の吉弘の鍛へたる脇差、鞘を拂つて右手に提げ、前後に心を配り乍ら六七間隔たつたる忠重の寢所を差して忍び寄りました

九月八日九星
舊八月十一日戊申
本命四綠　開　赤口

▲四綠● 負惜み論の事有日 新事見合北方は吉 ▲五黃● 不取締の事有る日 新事手控商事は吉 ▲六白● 脚下の見えぬ事有る日 新事手控商事は吉 ▲七赤● 散財を防がるべし ▲八白● 氣に添はぬ事有る日 新事手控 ▲九紫● 一白● 信利の日 ▲二黑● ▲三碧●

●米櫃と明日のお米の相談よりも、もつと

大切な家庭の用意

人は何時虎列拉や赤痢に罹るかも分からぬ、又如何なる惡病に襲はれぬとも限られぬ、或は何時火傷や怪我をせぬとも計られぬ、思はぬ危險が偶然起り、重きは爲に一命を落すはれぬとも保し難いであらう。醫師を招かうにも其醫師の來るまでに命脈の關する塲合が往々ある。思ふて茲に到れば其防禦、即ち救急家庭藥の常に備へて無い家庭こそ、米櫃に明日のお米の用意の無いよりも更に心細く、更に悲慘な家庭と言つべきである。

今や惡疫の流行季、完全確實なる家庭常備藥の御用意は、眞に刻下の緊要事である。

さりながら吾國に於ける民間治療藥の多くは、宵き無害無効主義の法規に因はれ、其形のみ大にして内容之に添はず、徒に射利的賣藥業者の跋扈跳梁を擅にせしむるのみで、更に時代の推移と伴はないのは、誠に遺憾の極みである。茲に於てか吾が商會は、嘗て民間治療界の革新を企圖し、完全なる家庭治療藥を創製せんが爲に、專屬の化學者をして研究に着手せしめしより、茲に四閲年。

獨逸ベルリン醫科大學内科教授 ライデン先生
同 内科教授 ゲルハルト先生
同 内科教授 ゼナートル先生
同 内科教授 ヒス先生
同 内科教授 クラウス先生
同 小兒科教授 ホイブネル先生
同 外科教授 ベルグマン先生
同 外科教授 キョートニヒ先生
同 外科教授 ビール先生
同 外科教授 ヒルデブランド先生
同 整形外科教授 ヨアヒムスタール先生
同 耳科教授 ルーツエ先生
同 耳科教授 パッソー先生
同 鼻咽喉科教授 フレンケル先生
同 眼科クリニキ長 グレーツフ先生
同 婦人科教授 オルスハウゼン先生
同 產科教授 ブンム先生
同 婦人科及產科教授 グッセロウ先生
同 教授 クローネル先生
同 皮膚科教授 レッセル先生
同 神經科教授 チーエン先生
東京醫科大學教授醫學博士 佐藤三吉先生
同 教授醫學博士 山極勝三郎先生
同 教授醫學博士 入澤達吉先生
同 教授醫學博士 土肥慶造先生
同 助教授醫學博士 吉井丑三郎先生
京都醫科大學教授醫學博士 松浦有志太郎先生
九州醫科大學教授醫學博士 旭憲吉先生
醫學博士 石川貞吉先生
醫學博士 二木謙三先生
醫學博士 南大曹先生
醫學博士 三輪信太郎先生
醫學博士 鹽田廣重先生
醫學博士 青山徹藏先生
醫學博士 茂木藏之助先生
醫學博士 安妻勝剛先生
醫學博士 大石貞夫先生
醫學博士 小川劍三郎先生
醫學博士 岡村龍彦先生
醫學博士 岩田一先生
醫學博士 山田弘倫先生
醫學博士 志立富松先生
醫學博士 田中友治先生
醫學博士 筒井八百珠先生
醫學博士 佐藤進先生
醫學博士 緒方十右衞門先生
醫學博士 佐藤勤也先生
醫學博士 長尾美知先生
醫學博士 河本重次郎先生
醫學博士 額田豐先生
醫學博士 菅井竹吉先生

等を始め此他東西醫藥學大家六十三大博士の學説を根據とし、東京、京都、九州の三醫科大學及び各府縣立病院等の處方、製劑錄を始めとし、現時世界に存在せる有らゆる家庭藥の處方を集め、熱誠なる學理的研究と、嚴密なる臨牀的實驗とを續け、貴重の犧牲を拂ひ、幾多の研鑽を經て遂に之を完成し、茲に諸君に提供するを得るに到つたのである。

されば從來の無害無効主義に囚れたる賣藥などゝは全く其根底に於て類を異にし、普通民間に於て一般素人の、法律上絶對に購入する能はざる十數種の劇藥を、安全なる程度の範圍に於いて配劑し、法に鑑み規に照し、民間治療藥として最も安全有効に製出せるものであつて、其作用の確實顯著なる、其効力の一定不變なる、眞に最新最良の理想的模範家庭藥である。

下痢の烈しい時、便通の無い時、腹痛の起つた時、腹中に虫の寄生した時、寒冒を引いた時、頭痛、眩暈のする時、熱病に罹つた時、頭や手足などの痛み出した時、火傷をした時、怪我をした時、眼病に罹つた時、傳染病の流行時などに、完全なる家庭藥の有ると無いとは、實に一家安危の岐るゝ處です。

疾病の治療は初期に限るので、初期の治療を怠るが爲に、輕症なる氣管支加答兒の程度に於て治癒し得る感冒をも、肺炎にまで進ませて、斃される例は往々あります。初期の手當の一と匙は末期の治療の百碗にも勝るのです。

されば、最も信頼し得る吾が家庭藥を常に備へ置かれ、急に應じ得る樣御用意の程を切に御勸め申します。

吾が家庭藥は、徹頭徹尾効力本位であつて、製劑の原料の如き、如何なる高價をも厭はず採用し、貯藏に堪へ、効力を不變ならしむる爲め、包裝には嚴重なる用意を施しあるも、容器の體裁などは全く省き、販賣價格は極度まで低下し、專ら需要者諸君の滿足を圖るを以て本旨として居るのである。

●家庭常備藥壹組の内容

健胃強腸 **ベントリクリーミン** 價二十六錢 十包入
急性慢性胃加答兒(食傷、溜飲、淡飲)、消化不良(胃弱)、胃潰瘍(胃腕痛)、胃痛(胃脘痛)、腸加答兒(泄瀉)、腸痛(疝氣)等即ち食ひ過ぎた時、飲み過ぎた時、食あたり、腹痛の時、何となく胸惡く口中生水の泌る時、吐き下しの時など胃腸に障害の起つた塲合は直ちに本劑を服用するのです、最も迅速に卓効が顯はれます。

強腸止瀉 **タンナルビス** 價二十五錢 十包入
本劑は急性腸加答兒(霍亂、泄瀉)下痢性慢性腸加答兒等の下痢を止むるに確効があります。腸結核(鷄鳴下痢、しぶりはら)等、凡て下痢止として之れ以上の藥は他にないと言つても宜い程で如何なる家庭にも必ず備へ置かざるべからざる良藥であります。

緩下新劑 **オブスタリン** 價二十錢 十包入
本劑は便秘即ち通じの惡い時に服用すれば消化器を害せずに快く通じます。下劑として理想的の良藥です。痔疾に用ひても卓効があります。

驅虫新劑 **アスカリン** 價二十五錢 三包入
本劑は蛔虫(蚘虫、蛕虫)の驅除に最も確實な効力があります。其他蟯虫の驅除にも有効です。虫が御腹に生じた塲合は此の確効ある虫下しを早速御服用なさい。

解熱鎭痛 **アセタリン** 價二十錢 十包入
感冒(風邪、傷風、冒風、邪熱、頭熱、血熱)流行性感冒(インフルエンザ、天行中風)偏頭痛(半頭風)神經痛、關節僂痲質斯(腦氣筋疼、痛風)、癆咳(百日咳、疫咳)高熱ある肺炎(肺臟發炎、肺熱暴喘、痰氣結胸、肺脹衝)、肺結核(肺痨、内傷勞症)等の熱性諸病の下熱用として、又、頭痛、神經痛、リウマチスなどの鎭痛藥として缺くべからざる良藥であります。

消毒殺菌 **撒硼酸** 價二十五錢 一瓶入
本劑は無害強力なる殺菌、防腐、消毒劑でありますから、口内病の含嗽用、膣及子宮の洗滌用、創傷、膿腫、皮膚病の洗滌用、下疳、横痃潰瘍、包皮炎等凡ゆる消毒防腐的洗滌に用ひて最も確實なる効力があります、痰吐や腸窒扶斯などに本劑を用ふる時は、恐るべき傳染病毒の感染を豫防する事が出來ます。

防腐軟膏 價十五錢 一罐入
本劑は、創傷、擦過傷、表皮剝離爛、皮膚潰瘍、火傷、凍傷、皸裂、凍瘡、漆瘡(うるしかぶれ)、小瘡、濕疹など應用の頗る廣き外用藥で如何なる家庭にも常に備へ置くべき良藥であります。

筒井氏方 **點眼水** 價十錢 一瓶
本劑は、加答兒性結膜炎、結膜春期加答兒(發芽性結膜炎、結膜充血(眼炎、流行性眼炎、はやり目、つかれ目、やみ目、ち目、やに目、火眼、風火眼、淚火眼)瞼緣炎、天行赤眼)顆粒性結膜炎(トラホーム、顆粒眼、眼瞼生沙粒、瞼生風粟、眼胞性米粒瘡など)の眼病眼疾諸症に卓絶なる効力があります。

右外用參種、內用五種合計八種類は如何なる家庭にも常備藥として缺くべからざるもののみでありますから此八方藥を壹組として發行します。

正價 八種一組 金壹圓七拾錢

であります。此外、歯痛藥、養毛藥、あせもの藥、腋臭藥、呼吸器病藥、婦人病藥等數十種ありますから、右の中、驅中劑を呼吸器病藥に、或は下劑を汗疹の藥に、或は目藥を歯藥にと云ふ風に取り代へて御請求になつても宜しい。又右一組中、或種の藥を省き他の藥を數多く御請求になつても宜しい。

●無代進呈
家庭藥壹組若くは價格壹圓五拾錢以上の御注文者に限り『獨逸自療家庭醫典』壹冊を無代で進呈します、但し部數に限りがありますから至急御注文下さい。

▲特約店大募集▼
各地に特約店を設置す希望者は至急貳錢郵券を添へ申込みあれ、詳細回答す。區域を定め一手專賣權を附與する規定あり。機會は再び得る能はざるべし、明日と言はず今日直に申込みあれ。

京城南大門外停車場通

ドラッグ商會家庭藥部

長電電二五六七番
振替京城四六七番

汽車

（年中無休刊）　第三版

京城日報

七日朝刊（夕刊と合せて八頁）

本紙定價　一部金三錢五厘　一ヶ月金七拾五錢
廣告料　五號活字一行金七拾錢
發行兼編輯人　奧田直毅　印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　合資會社京城日報社

下關期米特電

▲六日後場（氣迷ひ持合ひ）

仁川米豆取引所

▲六日後場　兵庫後場十五圓四十錢東京十五圓四十三錢大阪前止十五圓四十一錢後場商事の大勢にて當地當限米不申中十三圓〇六錢より八錢

大阪高を受けて▲⊖其他より能く買ひ向ひたるも八十二錢と跳れて高値の強氣合を告げにり市況は惡天候の襲來に稍や買氣を刺戟したる者の如くなるも戾りは甚だ鈍く賣物多く無碍にも上沖せず成行を示したるに過ぎず石に上りたり大に市場の注目を惹いた

▲⊖能く賣る

今後場同店より賣りたる玉數四千餘石の買ありたるも石に上りたりとの事

十一月限　寄付　十三圓七十六錢　止　十三圓八十二錢

九月限　一萬石
十月限　一萬八千四百石
十一月限　六萬三千六百石

るを鍾路署に於て引致し取調べの結果本年二月十八日午後九時頃にも同

京城日報

虎疫遂に來るか

內地各所に[illegible]熾するに至らず、更らに其の飛沫は他の健康地に及び、患者の續出しつゝあるは、洵に寒心に堪へず、殊に最近、一衣帶水の對馬に、其の患者を發生し、尙ほ延蔓の徵あるは、益々以て、危險は吾人に迫りつゝあるの感なくんばあらず。されば吾當事者は、熱心之が侵入を防ぎ、嚴重に海港檢疫を行ひ、幸にして僅に一人の患者を見たるのみにして、病毒の侵入を、防止し居たるも、突如として五日午後釜山發の京釜列車內に、一人の疑似患者を發生するに至り、直に適宜の方法を以て、之が撲滅延蔓防止に努めつゝあり。然ども當事者が熱心防止に奮勵しつゝあるを以て、必ずしも之が防止の、目的を達し得るやに就ては、蓋し未だ遽を安じ得べからざる也。何となれば虎疫は、他動的努力を以て、之を防止せんとするよりも、自働的防止を以て、之が撲滅の良法となすが故也。勿論之が最完全なる撲滅防止は、自他共に其の防疫の相俟て、初めて之か防止の目的を達し得べきは、言を俟ざる所也。換言すれば、吾人各自の、衞生と健康とを以て、卽ち病毒の侵入を完全に防止し得るが故也。もとより各自の衞生と健康とは各自不生の注意に據り、容易に之を爲し得るを以て、之を爲し能はざる者は、寧ろ此際、社會に對する敵なりと云はざるべからず。

吾人は既に京城に於て、虎疫に關する、最も慘澹たる歷史を有す。由來朝鮮に於ける虎疫は、其の多くの場合、海外よりの輸入なるが、近時に於ては、今より三十餘年以前より幾度の侵入を蒙り、殊に二十九年以前流行の際は、一日三百名乃至五百名の死者を出し、甚しきは、一日千五百名の死者を出したりと傳へらる。這はもとより、正確なる記錄等は存せずと雖も、如何に其病毒の、猛然激甚なりしかを知るに足るべし。次に明治四十年には、百九十八名の患者を出したるが、當時朝鮮政府は、遂に、其の撲滅に全力を傾倒し、統監府は遂に、軍隊を使用して、其の防止に努め、漸にして撲滅を見たり。翌四十一年には、幸に發生を見ざりしも、四十二年八月末に、患者の發生を見てより、病毒の延蔓迅速を極め、遂に千百七十五人の患者を出し、全治者僅に二百十名と注せられ、其最も發生患者の甚しかりし時は、一日實に百五人の多數に達したり。然も以上の、大流行の病系を調査するに、四十二年は南支那方面より、內地に輸入せるもの、更に釜山に移入されたる結果にして、又四十年は、新義州方面より、移入されたるものなるが、病毒の一度侵入するや、其の災害の甚大なる、蓋し此の京城の一例に見るも、明瞭なるべし。今回の發病に對しては、當事者は愼重なる研究と、而して多くの經驗とに依て、之が延蔓を防がんも、吾人は又た吾人の社會公德心を以て、努めて各自に、之が豫防を心掛けざるべからず。一度病毒の侵入を見んか、實に戰慄に堪へざるもの多かるべし。之に對する恐怖もとより可なり、然ども恐怖をして、遂に神經過敏に陷らしむる事勿れ。病毒は誘致せずんば、必ず來たる者に非ず。自重して以て徐に防止の法を講せよ、之れ此の際に於ける、最も善良なる豫防方法なればなり。

經濟資料

朝鮮の機織業（二）

□綿織物の現況及其將來

機業は朝鮮に於て最も有望なる企業の一として諸種の施設獎勵を見つゝある今日、一般當業者に於ても一層の研究を積む時は各自の繁榮期して待つべきものあるべく左に大正三年度に於ける半島織物統計を掲載し之が需給の關係を示さん

種別	生產額	輸移出金額	主なる仕向先	輸移入金額	主なる仕出先
綿布	三、七七九、七七三圓	四三〇圓	內地	一二、〇五二、一四〇圓	內地 英國
麻布（大麻布）	二、三〇四、三〇四			一、一三二、一六八	支那
苧布	四〇八、九〇七	三三七	支那	二、三五九、〇六一	支那、內地
絹布	三〇三、八八三	一〇〇	內地	一、四〇〇、〇四三	內地、支那
交織物	一二三、一二七	一、四〇〇	外國		
計	六、六一八、八〇四	五、六〇八		一五、六〇一、一〇八	

右表の如く半島織物類の需要額は綿布其の主位を占め麻布、綿布等之に亞ぐ、以下此等の織物に付き述べんと欲す

▽綿布類（木布）　綿布需要額は總ての織物中其の主位を占むるは日常の被服用として汎く使用せらるゝ點より見るも當然にして又悅ぶべき現象なりと云はざるべからず然れども一面に於て之が輸移入額千百數十萬圓の巨額を算するに想到せば朝鮮に於て產業に從事する者の遺憾の念禁じ能はざる所なるべし如何にもして鮮內に之が補給の途を講ずるは實に吾人の義務にして斯業は需要の多額並に確實なる點に於て有利有望なる事業の一たるを失はざるなり

朝鮮に於て需要せらるゝ綿布類を便宜上白木綿類色木綿類及び地棧綿布の三に大別することを得而して就中最も多數を占むるものは白木綿にして之を分ちて鮮內生產品並に海外より輸移入品と爲す卽ち鮮內生產品は殆ど全部白木綿に屬するものにして此の中在來木綿たる手紡絲を以て製織せる生木綿布大部分を占め他は紡績絲を以て織れる綿布の小量を含む、而して此等製織の方法は手紡綿布に在りては自家にて綿花を手紡し其の多くは居坐機を以て製織するものにして鮮內生產品中の多額を占むと雖も大部分自家用に充てられ市場に販賣せらるゝものは極めて少數なる上に價格の廉なること製造費すら支辨する能はざる情況にて工業として成立せざるは勿論副業としても亦到底望を屬する能はず

紡績絲を用ゐて製造せる綿布業は未た少量にして甚た振はずと雖も年々增加し殊に都市に接近せる地方にありては多く之を使用するに至り有利なる事業の一として認めらる但し其の製織布は需要の旺盛なる白木綿に非ずして色木綿シルケット織物或は地棧木綿なりとす

次に輸移入綿布類を見るに白木綿類卽ち金巾及びシーチング（七、六八六、〇〇〇圓）天竺木綿（五三一、〇〇〇圓）等最も多額にして色木綿及び地棧木綿（一二一、〇〇〇圓）は僅かに其の一小部分を占むるに過ぎずして色木綿は晩秋より初春に亙り用ゐらるゝ無地有色木綿にして地棧木綿は綾木綿及び變化織綿布類にて最近之等の需要次第に激增し來りたるが將來に於ても益々增加すべき見込なり以下之を白木綿類及び色木綿、地棧木綿の二種に區分して說述せんとす

水利組合現況

蒙利面積と事業費

總督府最近の調査に依るに鮮內の水利組合數は既設及び事業中のものを合し全北六、慶南四、忠南一、平北一、慶北一計十三にして其の蒙利面積二萬五千七百十七町步を算せるが之れに要せし事業費は合計三百五十九萬四千百三十二圓にして一町當りの經費額は平均百三十九圓七十五錢の餘なり、而して之れ等の組合中一町當りの事業費に最も多額を投せしは慶北の水利組合にて蒙利面積二百七十町九坪に對する經費五萬七千五百圓に上り一町步當り二百十一圓三十九錢餘となり又最も經費の少きは沃溝水利組合にして二千三百七十七町の蒙利面積に對し漸く二千三百七十圓の支出に過ぎず一町步當り八圓五十五錢餘に止まれり尙ほ組合中事業の最も大なるは大正水利組合にして其の蒙利面積六千八百町步之れに要する事業費百三十萬圓と註せられ其の一町步當り百九十一圓十七錢餘なり

野分（五の日十の日會詠）

山の不老郞が木から落ちてそれから病氣を惹き起こして旭町の小林醫院に入院してゐる十日程も前から一寸知せが來た

洗足踏む孤の野分濫れ　坡柳

芳草

○舟の早さ野分河添ひの家並　虎耳

○小家板の散てあり野分明け　浮碧樓

○野分獄むまじき日横はる　浮碧樓

日報歌壇

岡村北冥妻（京城）

われ三年住みて光れる故鄕の海戀ひ戀ひて過しけるかな

白雲は急かずあせらずゆつたりとゆつたりと流れ行くかな

雜草の大空の下紅にダリヤ燃ゆれば眼の痛きかな

油の香豚煮る香など漂へる南京街の異國の暑さ　夾（京城）

散步してふと氣がつけばわがひとへ腰のあたりがほころびてありぬ

T君は役人をやめ嬉しさうに居所もさだめずさすらひてあり

放浪漫記

八月十日シンガポールに於て　大谷光瑞

歐洲復航の北野丸は、ナタールのダーバン港にて今回は石炭搭載の便を得ずして、デラゴア港に寄港せし爲め當地著は多少の遲延を生じ、十八日に非ざれば入港せざる可しとの事にて暫時小生も當地に滯在致候。目下本邦は殘暑猶酷に秋凉未來らずと雖も、果實の美は是より二三箇月の間にて凍氷を和せる西瓜胡瓜の如きは炎夏の果物として炎暑を慰すべき最良の物に御座候其他桃李等溫帶果物中桃既に過ぎ漸く秋に入て梨子の美あり、而して葡萄、苹果、柿等初冬の柑橘に踵を接せり、秋果の美に決して春芳の艶を羨ます、然れども溫帶に在りては陽春三月は眼を慰すべく秋冬に漸く口腹の慾を滿たすべし、色味兩ながら共に樂むを得ず、熱帶に在ては時に繼かに消長を見ると雖も、過年花あり實あり眼口其樂を扁するを要せざるなり、蘇長公は茘枝の三百顆を以て南荒の竄死に敵すと云へり、實に熱帶果實の美は遙かに溫帶の右に出づ、今其優なるものを算せば先指をマンゴーに屈せざるべからず、マンゴーの種類は頗る多く其劣等なるに至ては生食に堪へず、糖藏に充つと雖も最良のボンベイ產のアルフオンリの如きに至ては、溫熱兩帶を通じて是と先後を爭ふもの唯中央亞細亞の甜瓜あるのみ、本邦產の最良の柿は纔に雁行するに過ぎず、桃の最良なるは其味や、劣を同ふすと雖も、肉軟に過ぎ口中に於て消失するの度や、急にして柿實の漸なるに如ず、ボンベイ產のアルフオンリは其肉軟なりと雖も、桃實の如く甚しからず柿實のやゝ軟なるに似たり、唯其特殊の香は或は之に慣れざるの人ありと雖も決して惡臭に非ず、果實は楕圓形にして長五吋幅三吋厚二吋強を普通とす、中に扁平なる大核あり肉は纖維を以て核に密著せり故に之を食ふや刀を以て核に沿ひ肉を分離せざる可からず、之を知らざる人は外皮を去り是れを食はんとす、其纖維は核と離脫せざるが故に遂に目的を遂せざるに至る、本邦附近にて得る所のマンゴーは多くヒリッピン群島產なるを以て、其味著しくボンベイアルフオンリに劣り

マンゴーの栽培は最も有利なるものの一なるを以て、亞細亞熱帶は殆ど之を植ゑざるなしと雖も、生食種中の優良はアルフオンリに及ぶものなく、今各地に栽培せりと雖もボンベイ附近に及ぶものなし、同一種に於ても氣候の關係上其產に變化を生ずるならん歟（未完）

◎書籍案內◎

蒙古通誌　中島竦
帝範臣軌國字解　市川鴨鳴著
太陽萬年毛筆
附屬品替穗
同　スクリップ
最新漢和辭典
漢學速成
奴內藏樣
漢學褓話
トルストイ
法然上人
新俳句
兩京去留誌
隨感錄
中山大納言
高麗男
蠻勇豪語
漢和辭典
雀躍
明治天皇
同　鮮文
業平秘史
長者
前太平記
朝鮮產業指針
高杉晉作
朝顏及其栽培法
三國千字文
學理的事業經營法
財界名士失敗論　上下
朝鮮熟語解
露國武斷外交
朝鮮不動產登記商業登記申請心得
銃獵之趣味
朝鮮新地圖
京城府明細新地圖
膠洲灣明細地圖
稻田一作
同　後編
女義士傳
藤公餘影
名婦傳
赤穗義士傳
御前講談
伯爵銀次
滿蒙處分論
國民年鑑　上下
理想の家庭
假名貞觀政要
擡球指南
富の道しるべ
致富要訣
過去の罪
妻
府郡學校組合法規提要
櫟村畫集
朝鮮語會話
朝鮮書畫家列傳
世界の變局
山水隨緣記
吉田松陰

京城太平通一丁目　京城日報代理部　電話長六六〇番　振替貯金口座京城三〇〇番

太陽

秋季大附錄　九月特別號
日露新協約と帝國の使命　浮田法學博士
東洋及南洋に於ける經濟的利權の確立　山本美越乃
經濟會議の結果と經濟同盟の將來　津村博士
獨逸政策の世界歸趨　某將軍
地方長官評論　川尻琴湖
一人の女の手帳　與謝野晶子
戰後日本の地位　內藤博士
▽瓜哇見物　坪谷水哉
▽越佐句行　巖谷小波
疾病と迷信　藤波博士
今日の個性中心主義　麻生正藏
最近美術界　木下杢太郞
大隈侯の行動　淺田江村
工場法制始めて成る（財政經濟時論）　堀江博士
書齋の窓より（浴衣掛けの生活、其他二項）　內田魯庵
▽死を懷ふ　谷本博士
故上田敏君
政界の表裏（大隈第二居据の顚末裏の裏まで）　無名隱士夜話
燃えざる火（三幕三場）　武者小路實篤
闇（長篇小說）　萬造寺齊
渦（長篇小說）　野上彌生子
彼等は踊る（長篇小說）　中村星湖
定價本號　五十錢（增大號に限り）　（郵稅五錢）
東京本町　博文館（振替二四〇番）

日韓書房
新版報告
千原伊之吉著　成金物語
宮家壽男譯　潜艇奇襲大英國の危機
旭東軒乾泰山　實地圖解盛花瓶華秘法
內藤鳴雪講　子規句集講義
少年通俗教育會編　少年百譚歷史の庫
京城本町二丁目

明治公債株式會社朝鮮支部
外務社員募集
京城府東拓會社隣　電話一九〇八番（振替京城二五五〇番）

實業之日本
千圓で身を立てるとしたら　安田翁　堀越氏　服部氏　羽田氏　高野氏
□成算ある南洋の事業　井上氏
□貿易界巨人の奮闘經歷　千草吉郞
□戰後の經濟競爭準備　增田社長
底力を養へ
關西財閥藤田平太郞氏　東京野人
經營の才能　浮田博士
特別大附錄　別冊として添附す
工場法早わかり
誰にも要點が直ぐ分る
工場ロオマンス　住友山人
野田の家族的醬油釀造業　新渡戸博士
町村へ警告
大西社丹の白の悲史
顧客吸收のカタログの作り方
全國實業肩書番附
我が事業界の前途如何　藤山雷太　成瀨正恭
東京京橋新肴町　實業之日本社

胃腸最新藥　チゲスチン
日本歐米十三ヶ國專賣特許
胃腸疾患、食慾不進重病後の恢復期、營養補給の目的にて肺の疾患小兒の營養不良等に賞用せらる
常用すれば血液を增し精力を盛んにす
◎說明書送呈
東京本町　藥種問屋　合資會社　圓城商店

蠶繭屑物賣買業
京城府龍山漢江通八番地　河原壽夫繭絲店　電話（龍）四二一番

新刊書御案內
大正四年大日本外國貿易年表上下
朝鮮名勝詩選
株式問答
世間學
印象派の畫家
挨及建築史
乃木院長記念錄
潜航艇エムデンの奮戰
獨逸の大英國の危機
戰線に立ちて
實驗有効民間療法
幕末明治裏面史
人情學
春色花の曙
長編講談蜂須賀院長兵衞
男讀むべからず
大正琴自由自在
朝鮮法律講義
同法律問答
同朝鮮行政法規大意
同會話譯文速成
同作文軌範
朝鮮巡查受驗提要
京城本町　大阪屋號書店　電話二八〇六　振替京城二五三七

◉蒙軍を邀擊せん
支那軍禁戰區域外に進む

支那軍は蒙軍を交戰禁止區域外の地點に於て邀擊すべく吉林兵三千は懷德縣に待ち構へ二十七、二十八兩師の奉天兵は新河口を經て前進しつゝあり(奉天特電)

◉我混成支隊益前進す

我が混成支隊は六日朝來益々前進此の事件は何等重大問題たらざるに斯も大部隊を動かしたるは是非蒙軍を豫定地點迄護送して帝國の威信を立てんとするものなれば突發事故起らざる限り二三日中に結了す可し(奉天特電)

◉定例閣議
滿洲兩事件報告

六日午前十時より首相官邸に於て定例閣議を開き外務陸軍兩大臣より朝陽坡事件即ち新河口事件に關する報告及び鄭家屯事件の交涉經過に關する報告ありたるが閣議に於ては朝陽坡事件は左迄重大視せず鄭家屯事件と共に交涉する事に決したるものゝ如し(東京特電)

◉ソンム激戰更に進出

巴里來電＝四日發表の公報に曰くソンムに於ける戰鬪は終日猛烈に繼續し我軍は更に進出せり獨軍はコムブルより猛烈なる逆襲を行へり。ソンム南方の敵戰線二十基米突及シリー附近の四基米突の戰線に亙りて突進を行ひ後者の戰線を奪取し捕虜三千七百名を得たり(倫敦電報)

◉ブ將軍の軍戰利莫大

露國公報に曰く、ブルシロフ將軍の軍は八月三十一日より九月三日迄將校三百八十五名及び兵卒一萬九千零二十名を捕虜としたるが中將校十一名卒一千三百名は獨逸兵なり外に大砲十二門及び機關砲七十六門を鹵獲せり(倫敦電報)

◉勃軍攻擊
羅馬尼侵入の

露都來電に據れば、露軍は羅馬尼の東部に侵入したる勃牙利軍を攻擊しつゝあり(倫敦電報)

◉排外人案
米國の利益に反する

華盛頓來電に曰く、合衆國上院は米國の荷主に對し差別的の待遇を爲す船舶に出港を禁じ郵便物の輸送を防碍し又は其の他の手段に依りて米國人に商業上の便宜を與ふる事を肯せざる國民に對し郵便通運電信無線電信及び海底電信の使用を拒絕する權を大統領に附與するの修正案を採擇せり(紐育電報)

◉訪露議員一行
露都官民の歡迎

訪露貴族院議員一行は莫斯科に到著し官民の歡迎を受けたり五日は市集會所に於て歡迎會を催さる(露都電報)

◉米國鐵鋼王の演說
＝排日米戰爭論を說く＝
帝國ホテル歡迎會席上

來朝中の米國鐵鋼王グーリー氏は五日夜帝國ホテルに於て日米關係委員並に日米協贊會主催に係る歡迎晚餐會に臨み席上日本の文明國に於ける第一流の地位に在るを認め國際的社會的政治的工業的化學的藝術的進步の跡を指摘し殊に日本國民性の學ぶべきと風光の明媚とを賞讃したる後大要左の如き演說を爲したり(東京特電)

余は諸君と忌憚なく意見の交換をして見たい御互に腹の底を割つて見なければ何事も徹底しない日米兩國の關係も同樣である將來日米兩國間に重大な衝突が起ると云ふ說を爲す者が米國にも日本にも有る之れは徒に耳目を閉して知らぬ風をして居るべき問題ではない大に有識者の手で公々然事實を研究して見るがよい余は今此の席上で斷言する米國の實業家は現在も亦將來も日米間に戰爭が起ることは思つて居ない而已ならず日米戰爭には大反對である之が米國の輿論である何故反對かと謂へば第一日米兩國は爭ふべき原因がない又今後も兩國に親交を破るべき理由が起つて來やうとも思はれない米國側から考へても日本と仲善くして行く方が得である米國民は日本の進步發展を嫉視しては居ない寧ろ之を賞讃し若しも米國が何か日本の爲めに手助けになる事が有れば一臂の力を惜むものではない米國の政策や國民性は決して理由なくして他から攻擊を受けるやうな事はないと思ふ殊に日本から無法な攻擊を受ける樣な事は決して無いと思ふ日本と米國とは將來協同して世界列國と均勢を保ち人類の爲め貢獻しなければならない之れは御互の光榮ある責任である

◉總督近畿旅行

寺内總督は大藤副官を隨へ六日午前八時三十分東京驛發列車にて京都及び奈良地方に旅行せり總督今回の旅行は保養旁々同地方の神社佛閣名所舊跡を訪ぬる爲めにて十五日頃歸京の豫定なり(東京特電)

◉海軍特命檢閱使

本年度海軍特命檢閱使六日左の如く任命ありたり(東京特電)

特命檢閱使被仰付　海軍大將男爵　出羽重遠
同　海軍少將　竹下勇
同　同　千坂智次郞
同　同　中野直枝
特命檢閱使附被仰付(各通)　海軍機關少將　船橋善彌

◉本郷中將

第一師團長本郷中將は六日夜釜山解纜の新羅丸にて内地に向へり(釜山特電)

◉秋季釋典擧行

既報の如く七日午前九時より東小門内經學院に於て秋季釋典を擧行し引續き副提學李子爵及び呂永博士の講演ある可し因に一般の參拜參聽を希望すと

◉八月京城貿易

八月中の京城通關貿易は輸移出十四萬二千五百五十三圓輸移入百三十三萬九千七百七十七圓にて出は牛皮の六萬八千三百圓煙草の一萬三千圓を主なるものとし入は小麥粉の一萬七千圓生金巾類十六萬八千圓日本木綿二萬二千四百圓紙類五萬二千圓小包郵便十六萬八千圓主要品にて漸く秋冬物の移入始まり割合に活況を呈せり

◉元山貿易盛況

元山港客月中に於ける輸移出入貿易は輸移出六十四萬九千七百八十圓輸移入五十三萬五千五百八十一圓合計一百十八萬五千三百六十一圓に達せり、今之れを前月に比する時は輸移出に於て二十四萬一千〇八十九圓輸移入に於て二十二萬一千八百三十八圓合計四十六萬二千九百二十七圓の激增を示し前年同期に比すれば輸移出額は三十六萬二千十二圓輸移入額は二十七萬三千二十三圓合計六十三萬五千三十五圓の增加となり更に元山の過去三十數年間の同期に對比するも未だ嘗て見ざるの盛況なりしなり即ち之れが主要なる原因を見るに輸移出に於て海產物及び黑鉛等の移出振はざりしに拘はらず主として浦鹽仕向けの皮革製品及び支那方面に對する原鹽輸出の著しく增加したると輸移入に於て船舶鐵類其他一般貿易の好調を示せる結果に外ならず(元山)

◉全南米作豫想

本道の米作豫想は水稻百六十萬二千五百八十二石にして昨年の實收百五十四萬二千五百四十九石に比すれば約四分五厘を增し居れり尤も咸平、羅州光州の三郡は榮山江蟾津江の流域に在る爲め水害を蒙り減收の見込なり陸稻は豫想二萬五百八十九石にして昨年實收一萬二千四百六十石より約六割五分五厘の增收を示したり大豆は本年豫想十萬五千四百九十八石にして昨年實收十一萬百十五石に比し約九分二厘の減收栗は非常に不作にして昨年實收に比して三割一分三厘を減じたり而して一般に作柄は良好にして農民が水害の甚だしきを憂ひ居る程にては無く寧ろ增收の見込あるは幸ひと云ふべし

◉大田金融概況

八月は例年夏枯れ時期にて一般に商取引の不活潑なるに本年は前月來降雨打續きたるも漸く快晴するに至り且つ玄米並に精白米の輸出意外にありしと米價の昂騰とに由り貯米の放賣者續出し市況稍活氣を呈し來りし爲め金融は俄に活潑となれり小麥の新入れ時期に降雨甚しかりしより過半腐敗し醬油原料として購入するにも困難を感ずる程なりき其他農作物は現況に照し二三割の增收豫想なれば資金需要を喚起するには早くも來月中下旬頃よりなるべし漢湖銀行帳尻を見に爲替受入六萬七千七百六十九圓前月に比し五萬三千四百四十圓を減じ拂出七萬五千三百六十七圓前月に比し一萬百四十圓を增加せり預金總額十三萬四千五百九十一圓に前月に比し八千三百三十七圓を減せり又貸出合計は二十三萬六千七十圓是れが内譯は農業資金三萬三千二百七十三圓工業資金三萬一千七百圓商業資金十七萬一千九十七圓等なりと

◉京畿繭產は五割增

京畿道に於ける本年の蠶況は春夏秋の三蠶期を通じて成績良く昨年に比し約五割強の增收ある見込なりと而して秋蠶は目下上蔟中にあるもの多く約一千四五百石の收繭豫想を爲し居れり秋蠶の產繭は十三日坡州、二十日長湍の兩郡に於て共同販賣を行ふことゝなり居れり

◉八月末の郵便貯金

八月末に於ける朝鮮總督府所管郵便貯金現況は預入人員九十三萬四千四百六十人其の金額九百十七萬六千二百五十圓にして之れを前月に比すれば人員一萬四千六百人金額一萬八千圓を增加し居れるも同月中は春來累月の趨勢に比し金額の增加頗る少なきがコハ農繁期と官廳銀行會社員等が暑休を利用し歸省若くは旅行をなし引出し多かりし爲めと見るべく人員の增加は各道を通じ納稅貯金組合を獎勵の上設けつゝある爲め其の加入者を出すなりと

◉印紙收入增加

朝鮮印紙收入の七月分は十八萬五千八百四十五圓にて之れを前年同月に比すれば四萬九千四百九十二圓乃ち二割七分の增加となる由

◉平壤商議豫算認可

平壤商業會議所豫算は豫て認可申請中の處九月三日附けを以て愈認可の指令ありたり

◉學校組合會議
新設學校の反對意見

京城學校組合は翌日の本會議に於て委員附託となり居れる戶別割賦課減免の件につき六日午後三時半より再び本會議を開會せり金谷府尹以下外五名の出席議員十一名先づ大村委員長より委員會の結果を報告したるに讀會省略にて可決し次に前回にて未議了となれる組合に名學書記を囑託せんとするに當り規約の一部を改正す可き議案を提出したれども出席議員正規の定數に充たず止むなく一時休憩を宣し其間に於て例の學校新設に關する秘密會を開きたるが未だ何等の決定を見ざるに先ち馬詰次男氏の出席ありたるを以て直ちに會議に移り贊否を問ひたる所讀會省略にて原案通り可決確定せり是にて當日の議事を終り引續き前記の新設學校問題に就て傍聽人を拂ひ秘密會を開會して打合す所ありたり

▲秘密會の内容に關しては素より知り難しと雖も從來の事情より推測するに組合に於ては大正六年度の新就學兒童を收容す可き一小學校の新設敷地を訓鍊院なる官有地の拂下を受け之に充てんとし既に案を具して其筋に申請の手續中なり總督府も亦大體に於て同敷地の拂下を許可せんとする方針なるが如きも未だ公然の指令は與へられざるものゝ如し然るに秘密會にありては訓鍊院は現在京城市街の内地人集團區域とは餘りに懸隔の地點にして通學上至大の不便あれば絕對に之を不當とし若し強て拂下げを受けんとするものならば公立高等女學校を訓鍊院に新築移轉せしめ其跡を南山小學校として利用するか或は明治町なる元の善隣商業學校(約千坪)を借受けて應急の處置を取るか又は訓鍊院小學校を是非設くるものとせば鍾路(女子部)及び西大門(男子部)の兩高等科のみを移轉せしむるも不可なかるべく更に

▲龍山側の意見としては高等女學校を孝昌園(靑葉町善隣商業の附近)に移し其跡を新に小學校として用ふ可しなど各說く所區々なりしが要するに議員の全部は訓鍊院小學校設備に對しては飽く迄も反對せんとする意嚮を示したるもの如く尤も當日の秘密會は即ち一種の協議會に過ずして正式に總督府より敷地拂下認可の指令に接したる後工事設計書を作成し更めて組合會議を召集し贊否を議場に問ふ可きものなれども府當局者も亦議員中の穩和論者も敷地の反對意見に就ては別に建議案提出等の如き形式に出でず事を折衝の裡に決せばやとの希望を有し居れば何れ本會議開會迄には何等か圓滿なる妥協點を見出し得べしと比較的に樂觀せる人もありたり

人事消息

▲石澤作治氏(大邱地方法院檢事)　五日午後釜山上陸赴任
▲四王天延孝氏(鐵工學校教授)　五日午後釜山上陸北上
▲阿部孝太郎氏(大阪府技師)　入京中の處六日夜退京
▲土岐僙氏(帝國製麻會社長)　六日夜入京朝鮮ホテルへ
▲下河邊行一氏(帝國製麻會社重役)　同上
▲ウイリアム氏▲ウエルス氏▲キーサー氏▲アダムス氏▲ギルマン夫人▲フレザー氏▲ピユーカー氏(以上英人)▲グラント氏▲テーロアー氏▲ミユーレー孃▲モルソン氏▲タウンセンド夫人(以上米人)▲スチルバム氏(獨逸人)　同上

南言北語

愈々我要求提案が突き出さるゝと段總理は之はチトひどい之では國會へも出す事が出來ぬ一體貴公使が聲明した日本が支那援助の誓言と此の條件は違反するではないかと林公使に云つて居る▲其うすれば日本の要求條件が過分と云ふに違ひないまさか餘りやさし過るから此では何うも取扱が仕にくいから最う少しきつく願いたいと云ふでもあるまい▲日本から見ると此の提案は大負に負た積りで普通なら到底斯うは負られない▲日支親善を思つてから斯の樣に負てあるのだ不平を云はゞ此方にあるものも考へによりけりだ▲其れともお氣に召さねば又々新河口事件もあるから最一度新規蒔直しの提案でも差し出しては何うであらう▲澤來太郎君が大隈侯に大法螺貝を送ると云ふ事は既に紹介して置たが愈々送つたとか其が又却々見事なものだと云ふから振つて居る▲法螺と云へば大隈侯が日光で山伏天狗を賞めて曰く▲昔は山伏天狗は錫杖を突き鳴し法螺の音ブーブーと山奥へ行つて一年も二年も籠つたものだ誰も山氣に觸れて死だ者はない▲今の若い者が僅に四五千尺の處で贅れるとは意氣地のない話だ▲御自分が山伏になつた氣で法螺組を大分褒て居る矢張法螺は侯の附き者に限るテ▲黑表で英國大使館に抗議した小林ドクトル▲或時犬養木堂君と演說會に行く時上野驛から汽車に乘らうとすると木堂君の後から一人の男が驅けて行た▲小林ドクトル早速之は木堂君が貧乏して居るから洋服屋が催促に來たものと考へ▲洋服屋が來ましたよ大丈夫ですかと木堂君に囁いだ▲木堂君は不審に思つて振返つて見ると小林ドクトルの洋服屋と云つたのは奚ぞ知らん關直彥君で之は失敬々々

□虎列拉討伐

○虎軍來る擊邀の手は民ぞしり　大塊
○人心一和虎軍も碎く力哉　無佛
○敵見えた疾く砲列敷けよ秋の野に　皐天
目利失敗者の無佛虎耳兩居士に對して　大塊
○玩堂洗崖の書歡禁ずるぞ今日の秋　無佛
○不論玩堂居寒し秋の風　虎耳
○鑑定のうかと外れし秋の暮　九分
○大關の力まけせる相撲かな　靑牛
○筆跡は玩堂なりしか秋の暮

◉兩腿を切斷さる　三日午後聞慶郡山陽面發安東[illegible]當を加へたる上同夜安東驛へ護送し滿鐵醫院に收容手當中なるが生命丈[illegible]

[illegible]より見本として借り受けたる人蔘エキス二瓶(四圓)を携へ外二名と共に[illegible]費消したるより本町署に逮擧さる

[illegible]鮮人は馬より飛[illegible]

[illegible]生れの桑原芳次郞(一九)は平壤監獄を[illegible]町原田某方の店員と[illegible]洋傘等を窃取し京城地方法院にて懲役一年の處分となれり

◉連絡船上陸客　五日午前入[illegible]

大割引發賣金參圓(送料共六)

朝鮮產業指針

洋裝クロース上製　紙數千四百七十頁　水產物造林適地一覽圖

朝鮮產業の如何を知らんと欲する者は本書を讀め

一、農業、拓殖、林業、鑛業、水產、金融等主として直接產業に關する記述書を採擇編纂したるものにして之に附加するに李王職を始め重要會社と銀行の事業を以てし尚且總督府の施設を以てしたるは官と民との兩面より如何に朝鮮產業の改良發達に努力せられつゝあるかを、最も的確に最完全に紹介せり

一、當業者が幾多の心血を注ぎ資財を抛ち千艱萬難を冒かし經營せる自家事業に對する實驗的敍述にして然も該敍述が同一事業にして人により土地により方法を異にし、各特色を發揮したるが如き又た其の事業の性質上從來公開せざりし設計及勞作の情態を赤裸々に明示したる如き之を朝鮮の凡ゆる階級に提供し之を母國に問ひ、之を臺灣滿洲は勿論廣く世界に示し植民地の產業振興上絕好の參考資料たるを疑はず本社茲に視る處あり朝鮮產業に志す士に對し廣く之を提供すべく大割引を以て發賣す此機を逸せず是非一本を机上に供へられよ

賣捌元　京城大平通一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報代理部
大取次　大阪屋號、日韓書房、巖松堂　其他各地支局

舶來和製　電氣モーター類
新品及中古品在庫豐富
◎御照會次第詳細御報申上候
大阪市西區北堀川町一四四の五十　吉國常吉方　電氣機械商　品川護助　電話西二三一三番

三五版法制經濟縮刷書

法學士 鳩山一郎、法學士 嘉山幹一、法學博士 横田秀雄、法學博士 横田秀雄、法學士 牧野菊之助、法學士 柳川勝二、法學博士 板倉松太郎、法學士 前田直之助、法學博士 松岡義正、法學士 柳川勝二、法學士 立石謙輔、法學博士 志田甲太郎、法學士 靑山衆司、法學博士 粟津清亮、法學士 須賀喜三郎、法學士 市村富久、堀川美哉、商學士 兒林百合松、商學士 太田哲三、法學士 島村他三郎、法學士 島村他三郎

民法總論、物權法論、債權總論、親族法要論、相續法要論、民事訴訟法論、強制執行法論、特別民事訴訟法論、人事訴訟手續法論、裁判所構成法論、商法總論、商法論、保險法論、手形法論、海商法論、社會政策要論、簿記學原論、會計學綱論、行政法總論、行政法各論

全二册前既後未、全二册既、全二册前既後未、全二册未、全一册既、全一册既、全七册第一既二至七未、全一册未、全二册前既後未、全一册未、全一册未、全一册既、全一册既、全一册既、全一册既、全二册既、全一册既、全一册既、全一册既、全一册既、全一册既

各册定價金六拾錢郵稅金六錢
但シ前既後未トアルハ前編出來後編未刊ニ候此分御注文ニ限リ特ニ送料弊店ニ於テ負擔致シ候

發行所　東京　巖松堂書店
發賣所　京城本町　(振替京城二四五四)　仁川宮町　巖松堂書店

京城永樂町二丁目(商品陳列館裏門通)
酒井婦人病院
入院隨意　電話二六〇、一〇八番

◎眼鏡新荷著廣告

米國製　正金張三種　甲三圓五十錢　乙[illegible]　丙一圓五十錢
純ニツケル一種　獨逸凸凹玉サツク付　一圓二十錢　但し前金
◎地方より御註文の節は直ちに代金引替にて御送附申上候に限り送料無料
京城本町一丁目(郵便局前)　中村時計店眼鏡部　電話二一七番　振替口座京城三四六番

…村田宇吉（三）は誤つて…無慘にも貨車に轢かれて右の大腿部を切斷せる騷ぎに驛員驅付應急手…旅館に止宿中なりし所…八月二十二日明治町二丁目藤原某方…軒より取立たる牛肉代金七圓餘を橫…逆樣に落ちて後腦部を打…

お顔の色さへ元氣らしく
立派に成人遊ばした李王世子殿下
御附武官　金應善氏謹話

來る八日を以て六十五回目の御誕辰に相當せらるゝ御父君李太王殿下の御祝延に列すべく、王世子殿下の御名代として入京せる御附武官金應善氏は六日午後三時朝鮮ホテルに訪問せる記者に語つて曰く

李王世子殿下の御近狀に就いては是まで屢々當紙によつて報道されましたが、昨今にあつても相替らず、至極御壯健で勉強しておいでになります、殿下も東京にお出でになつて十年の歳月をお送りになりましたが未だ一度も伊勢大廟に御參拜が無かつたので幸ひ

▲三週間ばかりの夏期休暇を利用し大廟に御參拜の計畫で伊勢までお出でになつたのであつたが急に御都合で御學友と共に三島の御別邸に退かれ沼津に於いて午前は現地戰術演習、午後は淵圖、水泳の練習などに日を費し炎暑と戰ひ、勉強されたためか、近頃では御顔の色さへ赭黑色となられ、御元氣の模樣なのは愉快に堪へない次第で厶います、殿下今回の御慶事に就いては私としては是まで新聞によつて傳へられた以外に別段申上げる事もありませぬけれども、內地では朝野を問はず

▲上下を通じて大きなる慶び を以てお祝ひ申し上げてゐる模樣で御座います、京城に參りましてからは日が淺いのでよく一般の樣子は判りませぬけれども矢張り內地のそれと同じ事であるのは申すまでも無い事と思ひます

公孫樹下の思ひ出
十三道の兩班儒生が雨露に曝されし　ありし昔の成均館を偲びて
五十三年振りに文廟に詣でた大提學金允植子の感慨

七日東小門內文廟に於て舉行せらるべき秋季釋奠祭に就き經學院大提學金允植子爵の談に曰く

自分は這回故朴齋純子爵の後を襲うて名譽ある大提學の任に當ることゝなつたから何は措いても是非參拜する積りで居つたところ不幸にして昨今輕症に惱み加ふるに近來神身共に衰へて居るから

◇此の祭典には參拜致し兼ねると思ふ、殊に多人數集られた晴れの場所で萬一のことがあつては恐縮に堪へぬので今度ばかりは遺憾ながら差控へた次第である、依つてせめての心遣りにとて去る五日家族を伴ひ謁聖して來たが自分はあり昔しの成均館を偲びて懷舊の情に堪へなかつた、——といふのは自分はむかし十七八才から二十八九才の頃まであの文廟の公孫樹下で庭に坐しつゝ螢雪の苦心を嘗めたものである、當時朝鮮では嚴冬三箇月間は陞補の修業を行つたもので當時十三道から集つた

◇兩班及び儒生達は何れも雨露に曝されながら文廟の庭に勉強したものであつた、自分は當時三十歲にして進士となり其の後多年支那に使して居た爲めに其の後は懷かしい文廟を訪ふ暇もなく這回實に五十三年振りに謁聖して來たのであるが星移り物變つた今日も文廟の境內は依然として昔しのまゝに遺つて居る、殊に朱殿と後庭の公孫樹とがむかしのまゝに秋を迎へて居るのも懷かしいと思ふ、猶ほまた自分の悅むだのは庭の樹木は植ゑ增され文廟の建物はむかしに增して壯麗となり祭物の如きも豐潔となり總て古典のまゝに保存されてあるとである

◇全體朝鮮の舊慣によれば自分は文官より泮通の役になりそれから大司成になるのが順序であるが以前に一度嘉善の役になつて以來支那に赴いたから長い年月を參拜せずに居たのである、自分は這回むかしよりも立派になつた文廟を見るにつけても前の朴齋純大提學の勞を多としなければならぬ。自分も這回此の名譽ある大任を受けたことであるから來春の釋典には是非參列しようと希つて居る

千葉の虎列拉騷動
二百名の群集警官に瓦礫を投ず
恐る可き誤解＝健康診斷を拒む

千葉縣千葉町寒川字下宿に虎列拉發生以來千葉警察署にては千葉町當局者と協力して豫防を講ずると共に其の撲滅に全力を注ぎつゝありしが五日午前十一時より附近一番の居住者に對し健康診斷を執行する事となり鳥海警察署長以下警長巡查二十餘名同地魚商大藤方に出張して健康診斷に着手したる處居住者の多くは漁業を以て生計を營み居る事とて出漁を禁止されしかば忽ち糊口に窮し激昂一方ならざりし折から言葉の行き違より漁夫等は奮然として怒り警官を目懸けて瓦石を投じ二百餘名の大勢は前記大藤方に棍棒を振つて殺到し遂に數名の負傷者を出したる騷に更に十數名の巡查急行漸く鎭撫したるが之が爲健康診斷はお流となり暴行者を引致し取調中なれども同漁夫の激怒は容易に治まらず形勢不穩なり（千葉特電）

機械發明
紙幣黴延消毒
製茶機と蠅捕機を考案して特許權を得た人

大田榮町加茂幸次郎氏は紙幣消毒及び黴延貨幣消毒機を發明し去る五月十六日農商務省特許局より特許權を得た同機の構造は大小五個のロールを二枚の帆布にて蔽ひその帆布の一掛はカイトロールの用を爲さしむべく取附け機械の

▲循環運轉中 一方の調帶上に紙幣を挿入すれば刷毛ロールに喰ひ止められつゝ進行する間に先づ消毒藥液を噴霧せしめ紙幣の一面を消毒濕潤し次に黴延裝置に掛るや加熱された湯熨斗に於て適宜の機構に依り迅速に幾回と無く鏝を掛け黴延作用を爲し夫より相摺合へる次ぎの調帶に挾まれて下方に送られ紙幣は裏返されて進み再び消毒藥液を注ぎて湯熨斗臺上に於て乾燥せられ繰出さるるので

▲貨幣の消毒 にも用ゆる事が出來るのである、同氏は語つて曰く『私は靜岡縣下の農家に生れ嘗て自園から產出する茶を製造する目的で『製茶器機』を發明し特許權を得ましたが其後第二案として『熱氣裝置製茶器機』といふ空氣を熱して茶を製造する機械を發明いたしました、朝鮮に參りましたのは明治四十四年で爾來酒類販賣業に從事して居りますが鮮人の不潔な事と

▲蠅の多のには 實に驚き入りました是れが動機で『落音機式蠅捕器』を考案し大正三年七月特許權を得ました、紙幣貨幣の消毒といふ事は衞生上必要な事であるから終生の事業として考案に取掛つたのですが思つたより早く出來上た譯です』

拳銃强盜就縛
大邱署の活動

去る四日大邱南町徐偕淳方を襲ひし拳銃强盜は警察の大活動に依り犯人の一人は大邱南町河內字一方に潛伏中を捕縛したり（大邱特電）

漢江又復增水

三日夜來の豪雨にて漢江は五日午前八時龍山沿岸に於て十七尺五寸に增水せしが六日午前八時に至り一時十二尺まで減水せしも又復五日夜來の豪雨にて六日午前十一時には十六尺に達しゐたり

浸水六百町步
全羅南道豪雨被難多し

全羅南道にては三日夜來の豪雨に依り各郡出水し咸平郡は田畑の浸水八百町步に達せり又た羅州及光州兩郡も被害尠からず光州松汀里間は交通杜絕し損害大なる見込なりとの電報六日午前總督府に達せり

馬山線の不通
七日午前中復舊の見込

六日朝來の降雨にて馬山線九箇所崩壞し汽車不通となりしが直ちに改修工事に着手したれば七日午前中には復舊の見込なり（釜山特電）

大阪虎疫
七百八十名に達す

大阪に於ける虎疫は六日終に七百八十四名に達し東區北濱二丁目一番地なる第一流の取引仲買人竹原友三郎方にも發生せり（大阪特電）

長崎縣の虎疫

長崎縣に於ける虎疫は其後稍々下火に向ひつゝありしが去る五日新發生廿名あり內市內二名にして壹岐對馬殊に多く佐世保赤崎面にも一名の發生ありて益々蔓延の徵あり（長崎電報）

轉げ込んで盜む

京城明治町一丁目居住秋田縣仙北郡神宮寺町生れの小西喜久治（四七）は三日夜九時頃外一名の友人と共に同町一丁目飲食店丸三事成田丈作方二階三疊の室にて飲酒中泥醉したる風を裝ひ隣室にて飲酒中なる坂井某の室に三回も轉げ込みて遂に坂井が傍らに置きありたる現金六圓餘、卷煙草、名刺、手帳等這入り居る風呂敷包みを窃取して早速友人と共に同町飲食店錦亭事淺田ゆり方に立越て三圓餘の飲食をなし窃取したる金にて支拂ひ他の物は所持し居れる所を訴へに依り本町署の刑事が出張直に引致せい

潛伏中捕はる

京城本町二丁目某商店の店員なりし和歌山縣東牟婁郡勝浦村生れの木村清一（二三）は本年七月二十九日同店の商品なる寫眞機三臺（三百三十圓）を旭町一丁目の河原某に賣渡し其代金中五十圓を受取り之を橫領したるを手初めに前後十六回に亙り販賣した寫眞用紙ピーオーピー數打寫眞用藥品等多數の代金を領收するに當り同店の印章を盜用して領收證を僞造して行使し合計一千三百圓許りを橫領又は詐取して盛んに遊蕩した末罪科の發覺せんことを恐れて逃亡中の所此程大連常陸町の某旅館に潛伏中捕はれ本町警察署に護送せられ取調べの上檢事局に送らる

不良鮮童檢擧

仁川署にては近來不良鮮童多數市內を徘徊して公衆搔浚への被害頻々たるより過般來之れ等不良鮮童の大檢擧を斷行したる結果仁川李點石（一八）外八名を檢擧したるが彼等は共謀して客月十七日仁川府山手町一丁目元竹田津三平方居住朝鮮銀行所有の空家內に忍び入り戶障子に嵌めありし硝子四十九枚價格七圓餘を窃取したる外四十餘件の泥棒を働きたるものなりと（仁川）

逐出されて放火

咸南咸興生れの柳氏（四八）は江原道伊川郡西面上禾若里谷不洞姜元祚の妻なりしが昨年舊七月中夫に放逐せられ爾來柳氏は同洞附近を徘徊して歸家すべき機會を待ち居れるも到底其見込みなきことを思ひ窃ろ放火して根を晴さんと本年舊七月二日午前二時頃姜允祚方の牛小舍に放火して遂に居宅二棟を燒失せしめたること發覺して檢擧せられ京城地方法院の公判に附せられたり

一こ毆り十圓

京城初音町居住岡山縣兒島郡粒江村生れの覺太郎事小川覺太（四三）は八月十日午後六時頃初音町に於て菊の手入中同所岩科清一郎の長男遼一（二二）が畑地の垣根を破損したりとて憤り拳にて遼一の右頰を毆り飛ばし治療五日を要する傷害を加へしため京城地方法院にて科料十圓の處分となる

野菜屋泣き出す
醉漢に毆られて

仁川花町一丁目居住大工職廣島縣生れの竹永知吉（二四）は五日午後五時過ぎ何處で飲んだか醉の廻つた顏して同町二丁目松本某方前に來りたる折柄通りかゝりし支那人野菜行商人王運（三二）なる者を捕へ野菜の價格を聞き知るより王は高價を言ひしより無茶苦茶に怒り出し突然毆り飛ばしたるより王は聲高々に泣き出した處へ巡查に見咎められしなど手に負へず取調べの結果拘留五日を申渡されたり（仁川）

飼犬に咬まる
仁川敷島町

安田みつ方雇人崔南召（二〇）は去る二十九日午後十時頃主人の不在中奥座敷の戶棚の奥に仕舞ひ置きありたる現金三十五圓在中の手提金庫を窃取し逃走中被害者に追跡逮捕され仁川署に引渡さる（仁川）

探險家一行の救助

北極探險家シャックルトン氏はエレファント島に漂流せる其の一行を救助したり（倫敦電報）

◎負傷消防手に同情金　曩きに仁川海岸里の火災に於て大負傷をなし目下仁川病院にて治療中なる常備消防手池邊常七（三六）に同情し其後森丸太郎、小山田惣十、平壤惣、遠藤井上長七及び仁川港備消防組員一同より金員の贈與方を仁川署へ願出でたり

別府温泉より

▲別府が温泉地として日本第一若くは世界屈指の稱あるは山と海の風路の調和を恍として繪の如き搖めもあり、交通の便利な故もあり、附近の土地の低い理由もあり、そこにもここにも温泉の湧出するにも原因し、女の綺麗で優しなのも數へねばならぬが、

▲遠くて遊港で水の澄める海水浴場の其の最も主な點は海岸の砂湯でせう、岸邊の砂地を掘ると、暖たかい湯が滾々として湧き出て來る、其の掘つた跡に仰臥又は安坐して、快い溫度の砂に身體を埋むる快は一寸筆に任悉い位よいものです、別府遊客が砂湯を以て別府名物の尤なるものとなすは決して誤まつてゐません

▲別府町でも砂湯の設備には心とてゐると見へ昨年まではなかつたのに本年は、砂浴場の各所に水道栓を引いて身體を洗はれるやうにしたり浴客の脫衣場を設けたりしてゐます、砂浴をやらする女將の道具も揃ひ、天幕の如き餘程立派なのを張つてゐます

▲其の浴場には朝から若いスラリとした美人がサルマタ若くばタオルを腰に卷いてやつて來る、惜しもなく見せた白い肌に夏の日が照る、——かと思へば婆さんがヨチ〳〵足を運ぶ、禿頭が來る、青年が來る、年寄の丸腦が來る、腰の立たぬ男女が人の脊に負はれて來る、役人らしい泥醉漢を生した紳士も來る、藝妓も來る、かうした雜々雜多な人が短くて狹い岸の窪んだのを下に布き、堅い木枕を頭に當て、十人若くば十數人もズラリと並んで寢ますが實に奇觀ですよ

▲砂に埋まると突出た首から汗がタラ〳〵と流れます、それを海を渡つて來る凉風に吹かせるのはよい氣持ちです、胃腸、呼吸器病などに砂湯は大變よく利くさ云ひます、大抵二三十分で交代するが一浴すると、可なり疲れを覺へます

▲別府は他力で立つ町です、客を引いて其の客に金を使はせて立つ町です、從つて客に快感を與ゆる點は何邪にも怠つてゐないやうです、宿泊料、俥代、諸物價等が何れも安價で誰れも滯在しよいやうに出來てゐるやうです、歸る時又行つて見やうと云ふやうな氣分を起さするのに十分な待遇をドコでもして吳れるやうです

▲然しそれが別府の生命でせう、コレあるが爲め昨年の如き汽車汽船で乘込んだ遊客が延に計算すると百五十萬人にも達したと云ひ升、又コレあるが爲將來も非常に繁昌して行くだらうと思ひます（B生）

◎朝鮮師團創設記念號　朝鮮寫眞通信社にては朝鮮師團創設記念號として發行する由にて締切は九月十日限りなりと

氏野氏の葬儀

海州地方法院檢事正氏野德太郎氏の葬儀は六日午後四時同地本派本願寺に於て執行せられたり之れより先き道長官趙義聞氏は勅使として其官邸に臨み靈前に幣帛を供へ又寺內總督より香料一封山縣政務總監より生花一對古海警務總長より造花一對を贈られ葬儀場には總督代理田中第一部長司法部長官代理山口法務課長向井平壤覆審法院檢事長及び在留官民多數の會葬あり頗る嚴肅に執り行はれたり（海州電報）

◎高山仁川商業校長逝去　仁川公立商業學校長高山紹慶氏は久しく腸窒扶斯にて仁川病院に入院療養中なりしが藥石効を奏せず遂に五日午前十時逝去せり、氏は本校が官立實業學校たりし時代即ち明治四十三年三月赴任し爾來八年間校長の職にあつて仁川教育界に貢獻する處甚大なるものあり資性温厚篤實好個教育家たりしが措むべし

壹岐丸停留者
五日午後壹岐丸より上陸客

奧田清次郎、山室梅次郎、相馬菊次、高木諦庄、森田文次郎、王井世三郎、同ひで、同つや、大塚虎吉、同その、入雅ふで、生駒奈良吉、渡野安太郎の十三名なり

壹岐丸上陸客
五日午後入港壹岐丸一二等客

（一等七名）井上四次、安森繁次郎、四王天延孝、小倉可夫、三好唯吉、藤本兼蔵、外人一名　二等（九名）吉田市太郎、同まさ、田島惟佐、有澤作次、渡野安次郎、安村伊太郎、増田國一、氏久捨吉、幸野小平　三等（七十四名）

▲天勝は七日限　連夜好評にて大入を占めつゝある有樂館の天勝は愈々七日を以て打上げ八日は李太王殿下御誕辰の餘興として奇術を御覽に入れそれより直ちに下の關に向ふべく龍山にては今回は開演せざるべし

▲女義來る　浪花館は改築落成の初興行として曩きに來京せる團弥以上の大物にて大阪に於いて若手中の人氣者なる女義太夫竹本林之助竹東馬鶴の一座十五名を呼し九日頃より開演すべく因みに一座は六日朝大阪を出發せりと

▲有樂館開館　本町一丁目の有樂館は久しく休演中なりしが今回天勝一行の興行に引續き來る八日より活動寫眞の興行を開始すべく伴つて寫地にて人氣ありし巴貫を始め新進の辯士十名を雇ひ入れ選拔せる寫眞と共に大に觀客の滿足を與ふべしと

▲黃金館　七日より全部新寫眞と差替ふる筈にて名金は益々佳境に入れりその新寫眞如左　▲實寫各國軍艦▲諷刺畫山坊の探險▲泰西活劇快報▲琵琶劇孝の德▲名金十七十八卷▲連鎖劇佐倉義民傳全五卷

▲大正館　大正館は愈々六日より例の大評判の戰禍を開演したる近來稀らしき大仕掛の大寫眞とて非常の喝采を博し居れり然かして大正館にては最も奇拔な廣告法さして市中の各官衙閣盤に大正館の戰禍は六日より始める旨の電報多數を發したる由

▲現場… 一値均三… 佐藤根吉、中內庶青、西宇之吉、同かつ、文仁勝、姜隆秋の十名… 一丁目隣生崔某方に忍び入り現金… 同せき、同かれ、中江榮治郎、同三造… 同すい子、同ふく子、同じゅん子、永井實弘、石…

油斷大敵！
コレラ　赤痢
惡疫の流行は猛烈なり！
効能本位の懷中良藥
守田寶丹の一は今時缺せぬ豫防藥
今スグ御用意あれ
▼頭痛眩暈　▼船車酒の醉　▼氣附毒消　▼下痢腹痛　▼食傷水傷　▼寢冷吐瀉　▼惡疫豫防
定價　金拾錢・廿錢・卅錢・五拾錢・壹圓　五拾錢以上は優美なる寶丹匙を添ふ
東京下谷池の端仲町廿七番地　守田治兵衛　振替東京二九八五
各藥店に販賣す

商業登記公告
株式會社漢城銀行ハ大正五年九月壹日京城府鍾路參丁目四拾貳番地ニ支店ヲ設置シタリ
支配人選任　支配人ノ氏名住所　京城府嘉會洞貳百參番地韓天錫、主人ノ氏名住所　京城府南大門通壹丁目拾四番地株式會社漢城銀行、支配人ヲ置キタル場所　京城府鍾路參丁目四拾貳番地
右大正五年九月壹日登記
朝鮮製絹株式會社監查役辻川富重ハ大正五年八月拾八日辭任シタリ
右大正五年九月貳日登記
東京市小石川區第六天町五拾四番地德川慶久ハ大正五年八月貳拾六日株式會社第一銀行取締役ニ當選就任シタリ
右大正五年九月五日登記
京城地方法院

京日案內　普通
▼卓上組立書架八十錢以上色々　京城本町電二五二七　ウツボヤ書店　165
米株參謀（姓名在社）　186
◎月給參拾圓以上商等外務員並集金人募集す要保證人履歷書携帶あれ　大和町一丁目四八　朝鮮寫眞通信社　187
◎貸金　月收の御方へ信用秘密融通　御報同上候　京城　178
◎店員入用　年齡十七八歲以上の者確實なる保證人を要す本人來談　大和町三不老湯前橫丁下る池木屋　龍山漢江通電車終點前龜屋雜貨店　174
古本　高價買入　京城本町三丁目　東京堂書店　163
◎見習入用年十五六小學卒業以上京龍仁間に確實なる身元引受人二名要す履歷書送れ仁川本町自神洋行　171
◎名灸　◎血の道　◎疝氣　◎胃腸　根治　若草町若草湯前　堀內正文堂　94
◎松汀里光州間自動車は太田木浦間凡ての列車に聯絡す　▲光州加藤自動車運輸部
番外
◎はねつき（うちみ）等　一切の治療御依賴に應ず　明治町　柔術道場　179
▲遞信省認可◎油斷大敵　電話口消毒器　傳染病豫防　59
▲專賣特許品◎各地特約店募集す　▲京城黃金町三丁目巴商行電氣部
恩給　年金　退隱料　類　低利直立替　▲極秘長期融通　▲京城永樂町壹丁目　139
▲商品陳列館表門前　江州屋本店
ゴム風船ゴムホーツ・キルデサツク外諸種ゴム製品製造卸　太陽ゴム商會　京城太平通大漢門前　電話二六〇六　振替二九三三　158
有給外務員招聘　男女　永樂町二の七五　京城十友合資會社內　福德生命保險會社　180

御旅行用　輕便　至極　耐久　無比の鞄　御使用者　好評　定價　低廉　送料

東京市芝區田町　內田鞄問屋　電話京一八七一　振替東京一五五一

正氣堂名刺舖　期日正確　送料無料　京城本町二　電話二一九五番　振替京城一二八三番

女鳩

渡邊默禪

(九七) 殺されても

その時平馬はずいと住江の方に膝を進めたそして、低いながらも力の入つた聲音で、

『住江さん、貴女は一體どうしたといふのですな。御當家に來られてから足掛十七八年、何不足のない待遇をうけて居ながら、考へのない若い女ではあるまいし、もう四十に近い齡をして指輪や腕輪などに目をつけるのみか、淺間しい金錢にまでも手を出すとは、實に正氣の沙汰とも思はれないが、氣でも狂ひはしないかの。一體どうして左樣な……』。

平馬は歎息しつゝ拳を膝に握りつめてじつと顏を視詰めた。と住江はぽろりと落淚して、

『鈴木さま。なんで私がそんなさもしい心を……貴老までが爾う御覽になるかと思ひますと、情なくつて泣いても足りません。第一お積りにもお考へ下さいまし。永年殿さまの御高恩に浴して居りながら、そんな恐ろしいことが出來る譯のもので御坐いませうか。あの事に付きましては何か深い仔細があるに相違ございません。貴老さまは御承知ないかも存じませんが、私し實は十七八年以來御厄介になりましたその御給金やお手當は、外に使ひ途もございませんし、老後になつてから安全に餘生を送るだけの基本財産にしようと思ひまして、ちび〳〵と銀行へ預けて置きましたの。それが積り積つて七八百圓になりました。こんな貯金までしてある私しが、何の必要が御坐いまして、他人さまのお品やお金にまで目をつけませう。鈴木さま、お察し下さいまし』。

住江は部屋から銀行の通帳を持つて來て自分の潔白を示した。平馬はそれを檢めて見て頷いた。

『うむ、こんな貯金まである以上は眞逆にのう。それに貴女はそんな人柄でないこともよく承知してゐる。實は乃公も左樣思つたから仲裁に入つたやうな譯だが、是にはいよ〳〵何か込み入つた事情があるに違ひない。其にしても秀さまがあの通りの御立腹だで、とんだハヤ手が著けられんが……ねいと、如何したものぢやらうて』。

『ねい、假令秀さまは何と仰有りましても、何誰さまからどう言ふお言葉が御座いましても、殿さまのお留守中にこのまゝお暇になることだけはお受けする譯に參りません。殿さまにお目にかゝつた上』と一際力を入れて『いろ〳〵申し上げたいことも御座いますし、また自分の證明も立てとう御座いますから、どうぞ鈴木さま。此の住江の苦しい切ない胸の中をお察し下さいまして、何分ともお取なしをお願ひ申します』。

住江は秀子に聞いた秘密を餘程打明けようかと思つた。それを打明ければ凡てが立所に氷解することを知らない譯ではなかつた。併しそれは早い、時機がまだ早過ぎる。その時機の來るまではどんな苦痛も忍ばねばならぬと思ひ返して、何にも云はなかつた。それだけ胸が苦しかつた。

『全く貴女の言はるゝ通りです。其の御決心なら何とかして穩便に濟むやうに取計つて見ませう』。ちよつと考へて『これは外に事情があるやうぢや。とにかく御前の御歸宅を待つた方が宜しからうかのう』。

『どうぞ、爾ういふことに』。

『ぢやあ、一寸當つて見ることにします。いやどうも近頃の秀さまには殆んど閉口ぢや。どうしてあのやうな我儘者になられたことやら、今の若い者には實際困りますのう』。

呟きながら立かゝるのを住江が止めて、

『あの、くどいやうでは御坐いますが、私はこのまゝ此所で殺されましても、殿さまのお歸りになるまではお邸から一歩も出ない決心で御坐いますから、貴老もどうぞ其のお含みで、私をお助け下さいまし。一生のお願ひで御坐います』。

『承知しました』。

平馬が出て行つた後で、住江は唯一人涙にくれながら思案にくれてゐた。程なく平馬は力のない顏をして戾つて來た。

買ひに行きましよ 木村屋さして パンとお菓子とキャラメルと (京城明治町 電二八七〇)

婦人科 產科 二宮醫院 京城壽町四一 醫學士 二宮亮吉 電話一三〇一番

新刊紹介

▲常識と科學(九月號) 龍巻の正體は何だらう、能率增進と調帶使用法、長い頭と短い頭、カブト虫の武裝と愛情等(十五錢東京市牛込區市ヶ谷左内町三〇松美社)

▲鑛業新報(九月號) 部落奬勵組合論、一代雜種と晩秋蠶、工場法の實施と蠶糸業、昆虫に於ける多角小體の性質に就て等(十八錢東京市日本橋區蠣殻町一四共社)

▲帝國青年(九月號) 例月の外本號には農村青年と結婚問題欄あり本問題の結婚、要を塗る資格、斯う云ふ處女を青年に其他を致す(十錢東京市麹町區内幸町一共發行所)

▲文章倶樂部(九月號) 惡號内容の豊富を見る余が好める秋の描寫、現代文章評論、感覺描寫、原稿の評判受考たる尖其十錢東京市牛込區矢來町中丸新潮社)

▲園藝(九月號) 東洋の女と西洋の女、一家の紹介と色々の問題、西洋名畫物語、初秋と優良子供欄其他料理、小説、文苑等(十八錢大阪府豊能郡服部村田村社)

▲農業世界(九月號) 繭を作らざる米作法、農村補習教育、高價燐分含有諸肥あせだけ、大戰後の農業九月植込の球根其他(二十二錢東京市日本橋區博文館)

▲探偵雜誌(九月號) 國民皆警察官主義、巡査優待論等の論説の外幾多の探偵犯罪捜査等に關する實例を收む(十六錢東京市麹町區有樂町一の四實業之世界社)

◉工場法早わかり 九月一日より全國の工場に實施せられたる工場法並に附屬の細則類は其箇條繁細に渉りて一讀通解に苦む所なるが實業之日本社茲に見る所ありて九月一日發行『實業之日本』に特別附錄として『工場法早わかり』の一冊子を添付し工場主幹部並に職工に必要なる要點を一々拔書して平易懇切に説明を加へたれば後の難解の法令註釋と異なり一讀直に其急所々々に通曉する事を得べく工業に從事する者の爲めには上下の別なく至極便利にて一冊の實業之日本を購求すれば附錄は無代にて手に入るべしと

▲大日本工業學會 東京高等工業學校は夙に從弟職工の爲めに低級の工業教育に力を入れ著々成功を收めつゝあるが更に東京小石川大日本工業學會なるものを設け入學し能はざる人々の爲めに通信教授により機械電氣建築應用化學の講義を公にせしめ來る九月より新學期を開始する筈と云ふ工業補習教育の機關として最も完全のものと云ふべし

讀者の領分

▲植民地だから諸物價が高いそれ故湯錢も高いのは當り前だといふのは間違つて居る第一京城の物價は內地に比較してそんなに高いとは思はれぬ米價は如何、牛肉は如何、酒は如何、醬油品は論外である殖民地だからといふて物を商くするのが當り前といふのは大不心得である(一移民)▲風呂錢ばかり數年前の通りに四錢も取つて居るが吾々は割增給料も官舎料も削られて居るセメテ三錢位に値下げして貰ひたい(老腰辨)▲湯錢問題には賛否論いろ〳〵あるが多く感情論ばかりで感服が出來ない一つ湯屋の內情を解剖して果して四錢が當か不當かといふ事を研究して見たいものであるその上で賛否を決するのが公平であると思ふが諸君如何(飛入生)▲京城には丁目が少ないから番地の數ばかり多くなつて分り惜くて困る(新渡來者)▲高いのは湯錢ばかりではない湯錢以上の貪り方をして居るものが外にもあるそれ等も比較して見るから高いか安いか調べて頂きたい同情者に訴ふ(湯屋の一人)▲乳やが來て十分間程して何か『コツ〳〵』と音がしますからのぞいて見ますと驚くではありませんか配達屋がおいしそうに乳を吞んで居るではありませんか(ビックリ生)

恐るべき梅毒 痲病治癒良劑 時候の變り目に特に發病す直試よ
梅毒 毒たやし丸 良藥 一名百發根絶丸
■帯多き人少量宛用ひ居れば逆上を引き下げ便秘を快通し諸毒を排除す
■重病に陷らざる前に早く用ひ給へ
(價四日分錢七日分五十錢 一週送料四錢)
本舗…名古屋市廣小路通 小林盛大堂 大阪 平野町小林大藥房 東京 寺井龍角散 賣捌 全國藥店若無は着金直送郵券不苦

大阪期米(六日)

寄付 當限[illegible] 中限 一四・六五 先限 一五・〇〇

引先十二圓七十六錢と三錢安に寄付たるも買物多く上步調になりたる折柄大阪正四十七錢と高値引にて買物出で步く[illegible]六十二錢と引締め

▲後場の手振 今後の成行や果して如何あるべき[illegible]

▲巨大に買ふ 注目に値したり 今後場同店より買ひある玉數入手[illegible]

[illegible]氣を唱へ居れり▲小麥 滿州小麥小口物七圓五十錢にて出來氣配は保合を唱へ居れり[illegible]

堺(高値 安値) 出來高 二萬百石 十二圓八十二錢 十二圓七十六錢 十二圓七十八錢

◉盜んで郷里へ 忠北清州郡江外面峰山里生れの金萬龍(三)は八家にて現金二十圓其他雜品十九圓餘のものを竊取したる餘罪發覺し檢事局へ送らる

特効新藥 かつけ
陸軍一等軍醫正 ドクトル都築甚之助氏發見 日、米、獨政府專賣特許
アンチベリベリン
▼用法は……内服と注射
▼目的は……豫防と治療
▼常用は……萬全の上策
▼注射は……衛心の救急
▼適應は……かつけ一切
定價 粉末 同 同 丸 同 注射液 同 エキス 同 [illegible]
説明書送呈郵券二錢

かつけ 患者は見よ
かつけ患者は毎月新聞を讀まざるべからず
毎月新聞にはかつけに關する記事を連載す
▼アンチベリベリン發見者都築ドクトル毎號執筆す
(今回限り無代進呈す) 東京市麻布區笄町
發賣元 南信堂藥局 大阪市東區備後町(三越南隣) 電話東七八五〇番 南信堂出張所
代理店 京城本町二丁目 木下不老堂
かつけ 特効新藥

急性慢性 胃病 溜飲便秘 治癒良劑 重き胃腸も能く効く論より證據
便胃 快通 大効丸 胃痛を快治 つかへをさげる 本舗名古屋 小林盛大堂
■本劑は多年實驗の良劑故永年因難の胃腸も治癒せしむ……▲又虚弱症・座業の人、腦病家、精神過勞の人、大酒家等に常に服せば胃腸を健全にし、食物の消化を助け、逆上を引下げ、つうじを適度にし、身體を強壯にし、且卒中中風を豫防す
(價一週間分錢三週五十錢一ヶ月一圓送料二錢)
本舗 名古屋市廣小路通 小林盛大堂 大阪平野町小林大藥房 東京 寺井龍角散 賣捌 全國藥店若無ば着金直送郵券不苦

ハカリ印の かぜねつの最良藥 ヘブリン丸
大阪田口のヘブリン丸改称

これ皆最近實驗者の寫眞なり

(一)愛知縣知多郡矢作村 島源助氏夫人
(二)山形縣西田川郡大泉村 房總竹恵子
(三)福島縣相馬郡金房村 江尻房男子
(四)岡山縣上道郡平島村 堤利七氏夫人
(五)青森縣北津輕郡三好村 桑田イツ子
(六)千葉縣千葉郡二宮村 林仙太郎氏夫人
(七)島根縣大原郡春殖村 永井宗太郎氏夫人
(八)栃木縣安蘇郡旗川村 兵藤兵助氏夫人
(九)上州邑樂郡長柄村 小谷野きぬ子
(十)山口縣玖珂郡本郷村 山田宗太郎氏夫人

月經以外のおり物 怖ろしい婦人病

▲危險なる分泌物 世間には月經以外のおりものがするを皆一口にこしけだと云つて、それと自覺せずにある婦人が澤山あります。一體月經は女が一人前になつた特徴で生理上の然らしむる所ですが、それ以外に起つた分泌物があつたり不時の出血を見たりするのは總て生殖器に故障があるからです。その白帶下にもいろ〳〵種類があつて、薄い水のやうなのもあれば濃い膿汁のやうなのもあり、又膿のやうにドロ〳〵して惡臭いのもあれば時には血が交つて出たりする。是等の分泌物は子宮內膜炎、子宮外膜炎、子宮實質炎、子宮肉腫、子宮筋腫、子宮癌腫、其他婦人病一切の附物と云つてよい位です。そして最初水のやうに薄いのでも病勢が進むに隨つて濃くなり血が混つて出るやうになり遂には烈しい子宮出血の爲に全身衰弱を來して一命を失ふ事になりますところが一般の婦人方は月經以外の分泌物があつても、怖るべき病氣の兆だと氣が附かずに手當を怠つて居る人があります實に危險千萬の話です。其爲め病勢は次第に募つてよしや一命は取止めたにしても一生取返しのつかぬ不姙症に陷つて了ひます。

▲おり物と不姙症 何故不姙の原因になるかと申せば之には三つの理由があります。第一に分泌物の爲に精蟲の進路を塞がれること第二は卵が孕せんとしても發育する場所がないこと第三にこしけ其他月經以外の異常なる分泌物の中には精蟲を殺す作用の酸性を含んでゐるから之が治らねば幾年經つても子寶を得られません。故に是等の御婦人は其原因たる子宮病を根治する事が肝要です。

▲婦人病自宅療法 月經以外の分泌物のほかに頭痛、眩暈、逆上、月經不順、下腹の引吊り等も子宮疾患の特徴ですから是等の患者は婦人科專門醫の書かれた『婦人病者の心得』を一讀して其通り實行する事です。本書には姙娠及び不姙症の原理から婦人病一切の治療法、產前產後の養生法まで詳しく説いてあります。から何人でも自宅で安全に治療する事が出來ます。右『婦人病者の心得』御入用の方はハガキにて左記へ何れにても御申込次第進呈致します。

命の母本舗 笹岡省三藥房 東京京橋區新榮町四丁目 大阪東區本庄中野町

最上醤油 朝鮮仁川港 高杉醤油醸造場

大邱浦項間自動車時間 (發着)
上り 浦項發 安康同 阿火同 永川同 河陽同 大邱着 (一番 二番 三番) [illegible]
下り 大邱發 河陽同 永川同 阿火同 安康同 浦項着 (一番 二番 三番) [illegible]
浦項 電話七番 大塚農場自動車部 大邱出張所 電話一一七番

金泉醴泉間自動車時間 (發着)
上り 金泉發 牙浦發 咸昌發 聞慶發 醴泉着 [illegible]
下り 醴泉發 聞慶發 咸昌發 尚州發 金泉着 [illegible]
▲小荷物運搬仕り候
金泉織居自動車支部 金泉電話四八番

阿波共同汽船仁川出帆
○芝罘、大連行 第二共同丸 九月八日後四時入 九月十日前九時出 (關東都督府命令航路)
朝鮮鐵道主要驛にて荷客連絡扱仕候 大連にては青島行定期船接續荷客共直航船と同一運賃にて通し發券御取扱可仕候
○城津、清津、浦鹽行(元山出帆) 第一阪鶴丸 月 日後九時出
○西湖津沿岸各港を經て雄基行 第三共同丸 元山出帆 月 日前八時出
阿波國共同汽船株式會社 仁川代理店 本町一丁目 山下回漕部 (電話一〇八番) 元山代理店 本町 (電話二四七番) 田口回漕部 京城取次店 南大門(電話二六八・二〇一七) 河村運送店

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行 立神丸 月 日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行 神丸 月 日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行 立神丸 [illegible]
○元山、城津、浦鹽行 小倉丸 月 日後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行 第三平安丸 月 日後六時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三平安丸 月 日後六時出帆
○任須奈、嚴原、壹岐、博多行 第三對州丸 月 日後六時出帆
○天草丸 毎月二日九日十四日廿一日廿六日(八日)午後十時出帆
本船取扱店 釜山港立新町 大池回漕部

日本郵船仁川出帆
○大連、太沽、牛莊行 相模丸 九月七日 正午出帆 高砂丸 九月十七日 正午出帆 三河丸 九月廿八日 正午出帆
仁川海岸町 堀回漕部 電話十一番

尼崎汽船仁川出帆
群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行 ○君が代丸 九月八日後四時出帆 ○大有丸 九月十八日後四時出帆 ○神代丸 九月十四日後四時出帆 ○秀吉丸 九月廿一日後四時出帆
仁川海岸通 高杉回漕部 電話五十九番

朝鮮郵船出帆
本社 電話長一九五二番 京城南大門通 松原運送店(電話長一七〇二)
○全羅丸 ○京畿丸 ○黄海丸 ○咸鏡丸 九月九日 九月九日 九月十三日 九月廿三日 釜山發 (門司より釜山各港經由雄基間航路)
○穩城丸 ○昌平丸 ○鏡城丸 九月十日 九月八日 九月十四日 元山發 (元山より各港經由雄基行)
○忠清丸 ○平安丸 九月十五日 九月八日 元山發
○永興丸 毎月廿八回 元山發 (北久浦五里浦行)
○[illegible]丸 九月八日 釜山發 (甘浦、九龍里、浦項各港經由鬱陵島行)
○江陵丸 ○賓陽丸 毎日 浦項發 釜山發 (長生浦方魚津寄港)
○三浦丸 九月十二日 釜山發 (長承浦、麗水、巨文島、濟州島各港)
○海州丸 ○統營丸 ○巨濟丸 ○慶寶丸 毎日 釜山發
○順天丸 三日目毎ニ 木浦發 (各港經由麗水行)
○慶興丸 九月十三日 木浦發 (各港經由濟州島行西廻)
○慶興丸 九月十一日 木浦發 (南多島海列島行、月三回)
○公州丸 九月八日 木浦發 (各港經由濟州島行)
○宗信丸 九月十二日 仁川發 (海州他各港經由濟州島行(東廻))
○江原丸 九月十五日 仁川發 (寄島、大連、芝罘行)
○麗水丸 ○晉州丸 九月十日 九月十七日 仁川發 (各港經由木浦行)
○全州丸 ○南陽丸 毎日午前 仁川發 (江華島、喬桐島、海州行)

大阪商船仁川出帆
(外航所阪航路並に連絡汽船を除く出帆時日は五分前を以て連絡切符發賣仕候)
○群山、木浦、釜山、門司、神戸大阪行 須磨丸 九月八日 安東丸 九月十八日 大智丸 九月十四日 後五時出
○木浦、釜山、嚴原、郷の浦、長崎行 信濃川丸 九月十四日 信濃川丸 十月二日 後二時出
○群山、釜山、横濱行 福州丸 九月十三日 湖州丸 九月廿九日 後二時出
○木浦、釜山關門、神戸、大阪行 天智丸 九月十二日 後二時出
○鎮南浦、大連行 信濃川丸 九月廿七日 信濃川丸 九月九日 後二時出
○大連直行 福州丸 九月七日 湖州丸 九月廿二日 正午出帆
○鎮南浦、龍岩浦、安東縣行 漳州丸 九月九日 正午出帆
○清津、浦潮行(元山出帆) 印城 安平丸 九月十六日 宮島丸 九月廿二日 後二時出 (八城津西湖津ニ寄港浦潮不寄港)
○上海、基隆、打狗行(大連出帆) 基隆丸 九月廿四日 湖北丸 九月十三日 後四時出 前六時出
御注意 朝鮮鐵道及び南滿洲鐵道會社との連絡切符發賣仕候
京城切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二〇番 內國通運會社支店 京城切符發賣所